

令和6年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

調査結果報告書



令和6年12月
福岡県教育委員会



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」
これからの社会をはばたく子供たちの「翼」をイメージした妖精です

はじめに

今、急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

学校では、全ての児童生徒が安心して楽しく通える魅力ある環境づくりを行うことを前提とし、児童生徒の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、集団活動を生かして、一人一人の可能性を伸ばしていく指導・支援を充実させることが課題となっています。

全国学力・学習状況調査は、一人一人の児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとともに、検証改善サイクルの確立を目的に行われています。また、福岡県では福岡県学力調査を行うことで、小学校5年生から中学校3年生までの一人一人の学習状況等を追跡把握し、切れ目のない指導・支援に役立てることも目的としています。

福岡県教育委員会としては、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を育成する取組だけでなく、それらをよりよく働かせるための粘り強く挑む力や、自己有用感や自己効力感、他者と協働する力などの学びに向かう力、人間性等のいわゆる非認知的能力を育成する取組も大事にしています。

このような中、調査結果の分析に加え、成果をあげている学校の特色ある取組から、知識・技能や思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等を向上させるポイントを整理しました。本報告書が、各学校の取組の参考となり、児童生徒の資質・能力の向上につながることを願っています。

< Society 5.0の時代を生きる児童生徒達に求められる力 >

- 文章の意味を**正確に理解する読解力**
 - 教科等固有の見方・考え方を働かせて**自分で考えて表現する力**
 - 対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し**新しい解や納得解を生み出す力**
 - 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり**
 - 対話でのコミュニケーションを通じて**人間関係を築く力**
 - 困難を乗り越え、ものごとを**成し遂げる力** ○**公共の精神** ○体力の向上 ○健康の確保
- 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』令和3年1月中央教育審議会 参考

本 県 が 育 成 を 目 指 す 資 質 ・ 能 力

○知 識 及 び 技 能

○思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等

○学 び に 向 か う 力

- 学びを調整する力：学習方略・メタ認知 等
- 粘り強く挑む力：自主性・自制心・勤勉性・忍耐力・持続性 等

○人 間 性 等

- 自己有用感・自己効力感
- 協働する力：共感性・協調性・貢献性 等

< 本報告書の読み方「これだけは」 >

市町村教育委員会、 学校管理職、主幹教諭	次年度の経営ビジョンの作成・改善のために、育成を目指す資質・能力のイメージや学校経営の例、成果をあげている学校の取組例を参照すること
研究主任、 学力向上コーディネーター等	次年度の経営ビジョン作成・改善のためのデータを提供するために、調査結果の概要や分析方法、クロス分析の結果を参照すること
学級担任、教科担任等	自校の取組の改善や効果を向上させるために、成果をあげている学校の取組例を参照すること

もくじ

※ Ⅱ～Ⅵは、全国学力・学習状況調査に関する概要や結果等)

○	本報告書の活用に向けて	1
---	-------------	---

I	本県が育成を目指す資質・能力	2
---	----------------	---

II	調査の概要	4
----	-------	---

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

III	調査結果の概要	6
-----	---------	---

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

IV	各教科の調査結果	14
----	----------	----

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

【書き込み活用ページ①】教科に関する調査結果の整理

V	質問調査に関する調査結果と分析	24
---	-----------------	----

学びに向かう力、
人間性等

【書き込み活用ページ②】質問調査結果の整理

VI	クロス分析の結果	32
----	----------	----

学びに向かう力、
人間性等



知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

VII	令和6年度福岡県学力調査	38
-----	--------------	----

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

VIII	成果を上げている学校の事例の紹介	50
------	------------------	----

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等



学びに向かう力、
人間性等

IX	まとめと今後の取組	58
----	-----------	----

本報告書の活用に向けて

報告書を読む人のそれぞれの立場等によって、下の図を参考に、すべての項目を読んで全体の内容をつかんだり、必要な項目を重点的に読んだりしてください。



I 今後、本県が育成を目指す「資質・能力」

1 資質・能力の三つの柱について

本県においては、市町村教育委員会、各学校等の地道な取組により、本県の全国学力・学習状況調査の結果は、ここ数年、小・中学校ともに全国平均水準を堅調に維持しており、一定の成果を実感できるようになった。

ここで、改めて資質・能力の三つの柱に目を向けると、全国学力・学習状況調査において把握できている力は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が主であることが分かる。

文部科学省は、「「資質・能力」の三つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。」としている。

本県においてここ数年、小・中学校ともに全国平均水準を堅調に維持している「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、児童生徒がどのような方向性で働かせ、よりよい生活を送るかを考えた際に、今後は「学びに向かう力、人間性等」を含めた資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが重要になるといえる。

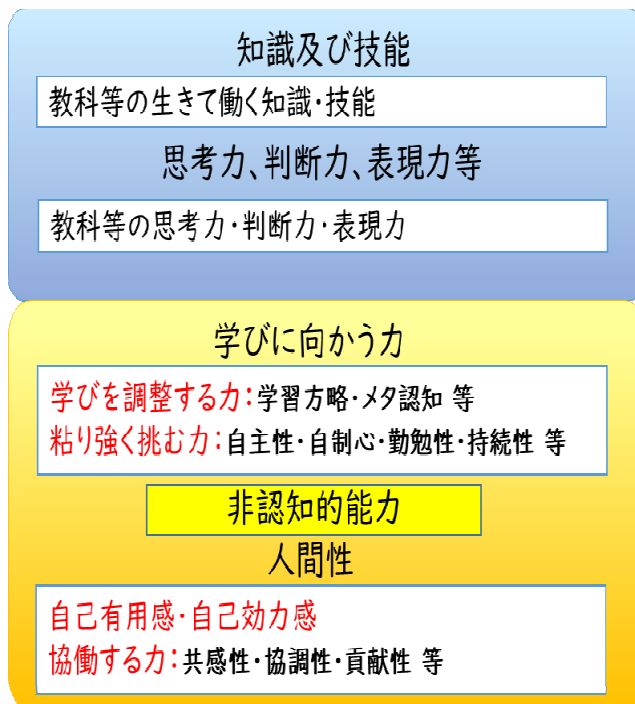
一方で、「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」と比べ、いわゆる非認知的要素を多く含んでいることから、能力を把握することが困難であるといった側面もある。

2 育成を目指す「資質・能力」のイメージ

文部科学省は、学びに向かう力、人間性等の具体として、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度、自分の思考や行動を客観的に把握し認識するメタ認知、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等を挙げている。

これらを踏まえ、本県が育成を目指す「資質・能力」のイメージを作成した。

学びに向かう力は「**学びを調整する力**」と「**粘り強く挑む力**」、人間性等は自分自身を高めるための「**自己有用感・自己効力感**」及び他者や集団への意識の中で自分を高める「**協働する力**」からなる。



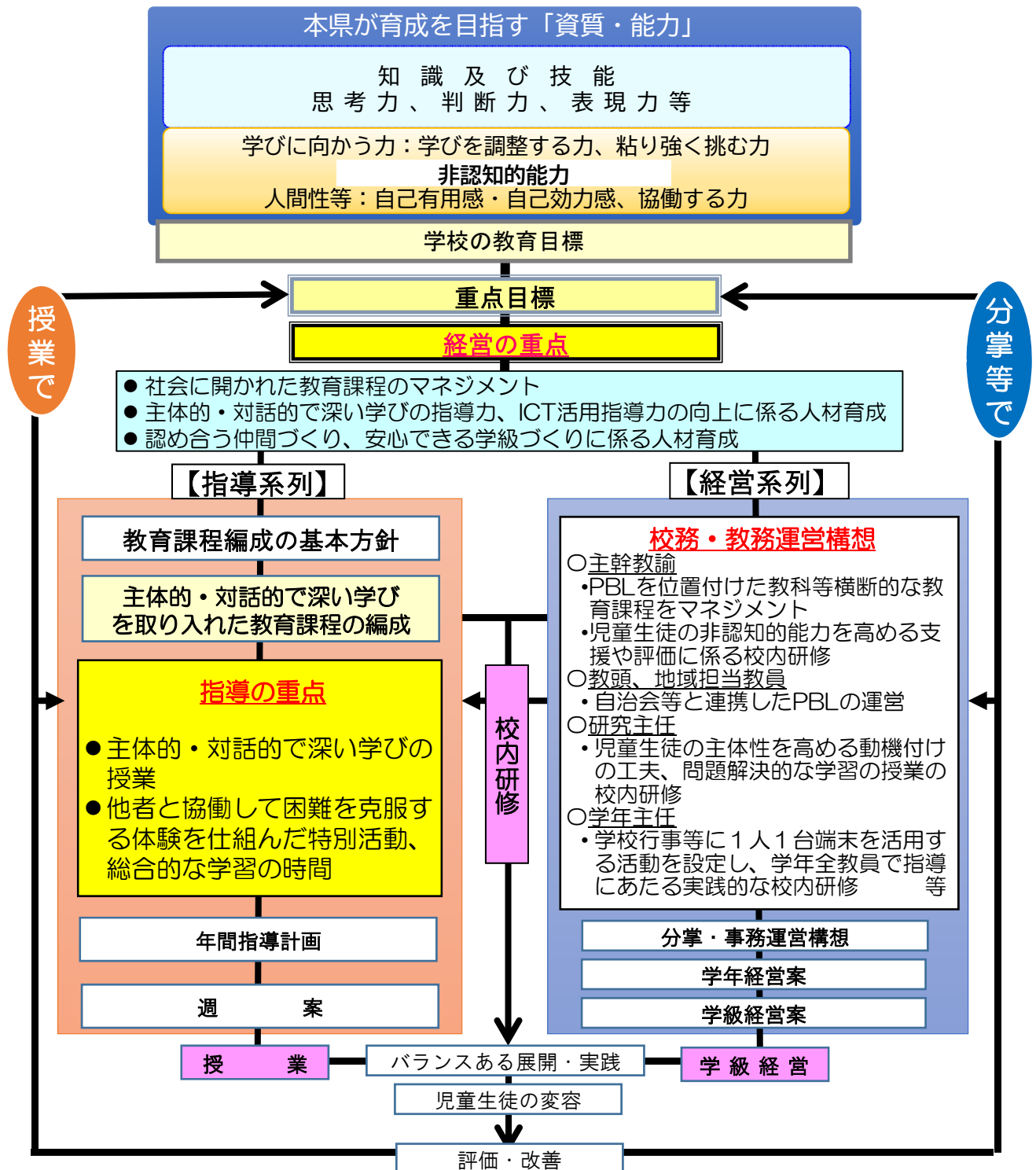
参考「学力の二元的分類」市川伸一(2000)
「家庭、学校、地域社会における社会的情動スキルの育成」OECD(2015)

【育成を目指す「資質・能力」のイメージ】

3 「資質・能力」を向上させる学校経営（例）

各学校の校長は、「資質・能力」の育成に向けて、経営ビジョンを言葉にして所属職員に示し、そのベクトルをそろえ、教頭とともにリーダーシップを発揮し、みんなで協働しながら教育活動を共通実践し、みんなで成果を実感することが重要である。

そこで、まずは児童生徒の実態分析から、誰にでもわかりやすい言葉で重点目標を設定すること。その際、下に示す本県が育成を目指す「資質・能力」から自校の課題を見出し、設定すること。次に、組織運営や人材育成、家庭・地域との連携等から「経営の重点」を策定、そして中心に据える教育活動を「指導の重点」として定め、各種経営案や指導計画を作成し、所属職員や児童生徒とともに取組を進め、その結果を評価し、取組の改善を図っていく必要がある。



令和6年度全国学力・学習状況調査

Ⅱ 調査の概要

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施

4 調査事項及び調査実施日等

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査：小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学

〔4月18日(木)に実施〕

イ 質問調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

小学校は、4月19日(金)～4月30日(火)のうち、あらかじめ指定された日、

中学校は、4月18日(木)以外の日程で実施する場合は、あらかじめ指定された日に、

原則、全ての児童生徒を対象として、ICT端末を用いたオンライン方式で実施

(2) 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

〔4月1日(月)～18日(木)にオンライン方式で実施〕

5 調査問題の設問数及び問題形式

		小学校調査		中学校調査	
教科		国語	算数	国語	数学
設問数		14問	16問	15問	16問
	選択式	10問	5問	9問	5問
	短答式	2問	7問	3問	6問
	記述式	2問	4問	3問	5問

6 調査日(4月18日)に調査を実施した公立学校数・児童生徒数

小学校調査	学校数(校)	児童数(人)	
		国語	算数
全国(公立)	18,466	947,364	947,579
福岡県(公立)	708	42,540	42,553
福岡教育事務所	120	9,775	9,774
北九州教育事務所	46	1,816	1,817
北筑後教育事務所	79	4,183	4,184
南筑後教育事務所	85	3,007	3,007
筑豊教育事務所	56	2,293	2,298
京築教育事務所	45	1,520	1,520
指定都市	273	19,941	19,948
県立学校	4	5	5

中学校調査	学校数(校)	生徒数(人)	
		国語	数学
全国(公立)	9,268	875,574	875,952
福岡県(公立)	342	39,558	39,577
福岡教育事務所	57	9,069	9,063
北九州教育事務所	19	1,779	1,781
北筑後教育事務所	34	3,742	3,745
南筑後教育事務所	35	2,746	2,748
筑豊教育事務所	28	2,102	2,107
京築教育事務所	20	1,355	1,357
指定都市	135	18,300	18,310
県立学校	14	465	466

福岡県全体を各地区等に分けて表すと、学校数や児童生徒数等には違いがあります。そのため、他地区(他校)の取組を参考にしながらも、各地区(学校)における丁寧な実態分析に基づいた取組の推進が重要です。



Ⅲ 調査結果の概要

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

Ⅰ 調査結果の概況

		小学校（公立）			中学校（公立）		
		平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率
国語	福岡県	9.7	102.1	69	8.7	100.0	58
	全国	9.5	(100.0)	67.7	8.7	(100.0)	58.1
算数 数学	福岡県	10.2	101.0	64	8.2	97.6	51
	全国	10.1	(100.0)	63.4	8.4	(100.0)	52.5

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

標準化得点：全国の平均正答数を100としたときの本県の平均得点のこと。

平均正答率：平均正答数を出題数で割った値を百分率で表示した値のこと。

Ⅱ 教科に関する調査の結果

- 国語は、小学校、中学校ともに全国平均以上であった。
- 算数・数学は、小学校で全国平均以上であり、中学校で全国平均を下回った。



4つの教科区分のうち、3つが全国平均以上であり、全国平均水準を堅調に維持できています。

3 標準化得点と学力層(四分位)の推移

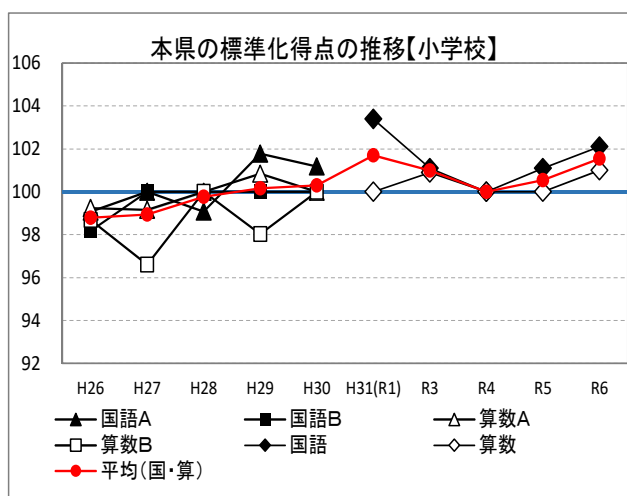
※ 平成31(令和元)年度からA・B問題が統合されたため、それまでの年度は参考。

(1) 本県の標準化得点の推移

<小学校>

- 前回との比較では、国語、算数ともに1.0ポイント、上昇した。
- 経年での比較では、国語は7回、算数は6回連続して全国平均以上の結果だった。

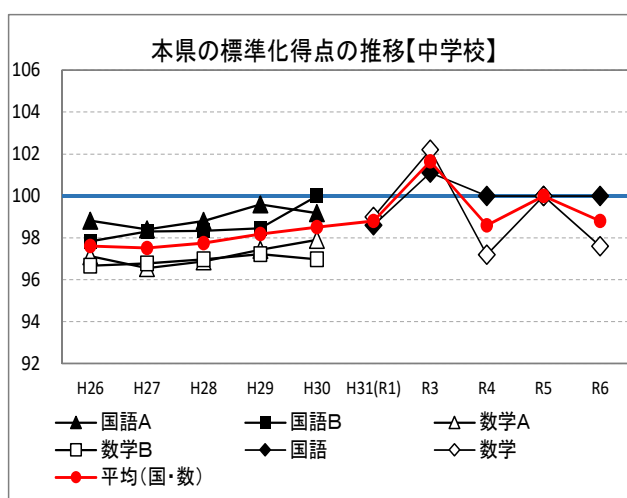
	国語A	国語B	算数A	算数B
H26	99.1	98.2	99.2	98.7
H27	100.0	100.0	99.2	96.6
H28	99.1	100.0	100.0	100.0
H29	101.8	100.0	100.8	98.0
H30	101.2	100.0	100.0	100.0
	国語		算数	
H31(R1)	103.4		100.0	
R2	未実施			
R3	101.1		100.9	
R4	100.0		100.0	
R5	101.1		100.0	
R6	102.1		101.0	



<中学校>

- 前回との比較では、数学は2.4ポイント下降した。
- 経年での比較では、国語は4回連続して全国平均以上の結果だった。

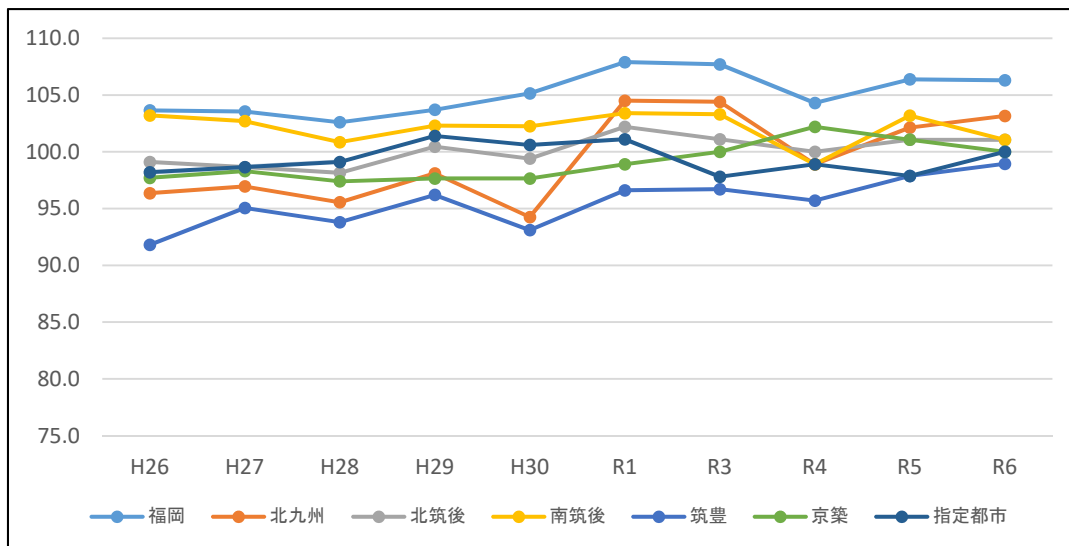
	国語A	国語B	数学A	数学B
H26	98.8	97.8	97.1	96.7
H27	98.4	98.3	96.6	96.8
H28	98.8	98.3	96.9	97.0
H29	99.6	98.5	97.4	97.2
H30	99.2	100.0	97.9	97.0
	国語		数学	
H31(R1)	98.6		99.0	
R2	未実施			
R3	101.1		102.2	
R4	100.0		97.2	
R5	100.0		100.0	
R6	100.0		97.6	



(2) 教科ごとの地区別標準化得点の推移

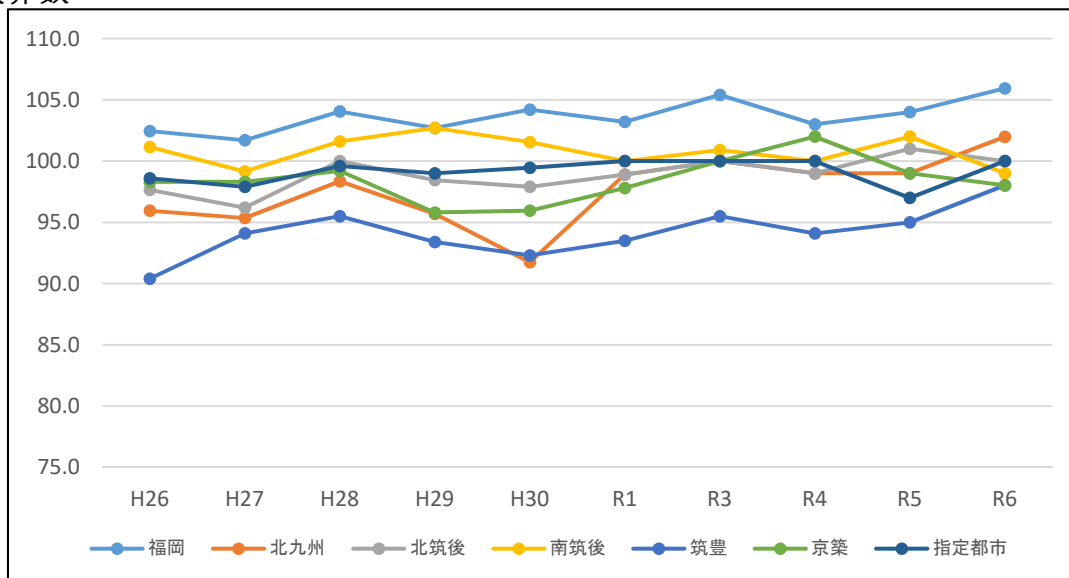
※ 折れ線グラフ(地区別標準化得点)のH26～H30は、A・B問題の平均値。

<小学校国語>



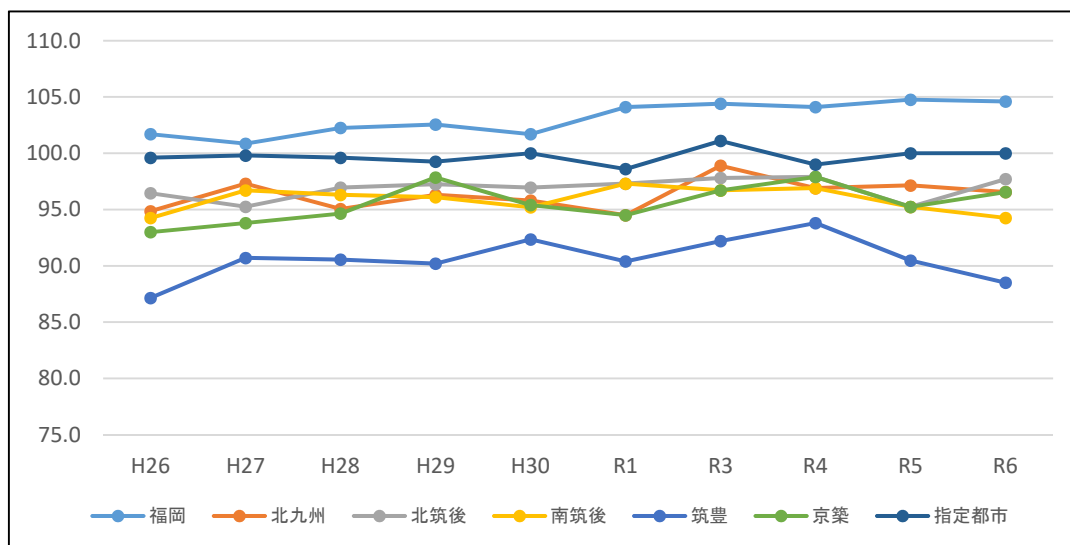
- 7地区中6地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中3地区で上昇した。

<小学校算数>



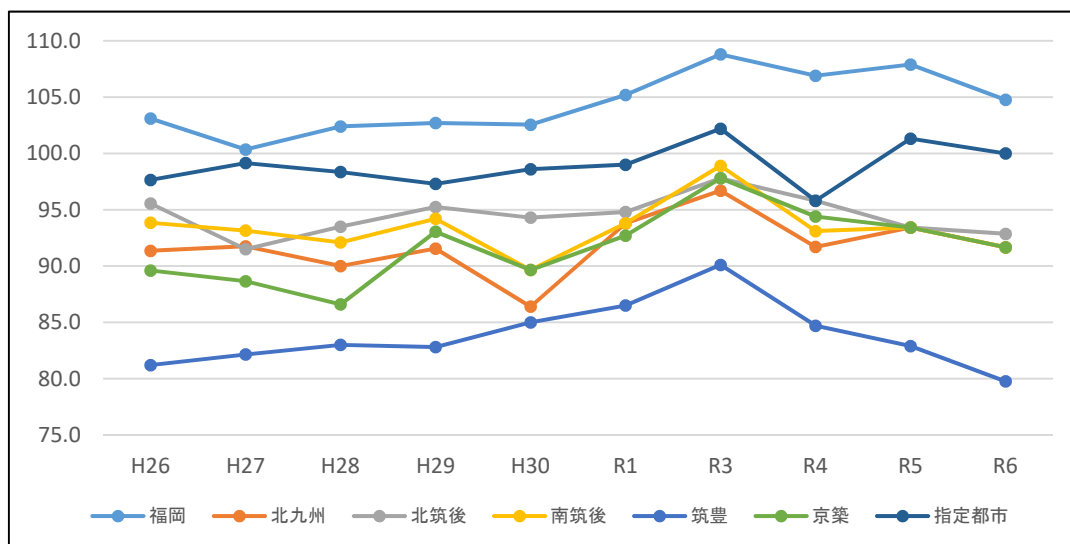
- 7地区中4地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中4地区で上昇した。

<中学校国語>



- 7地区中2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中2地区で上昇した。

<中学校数学>

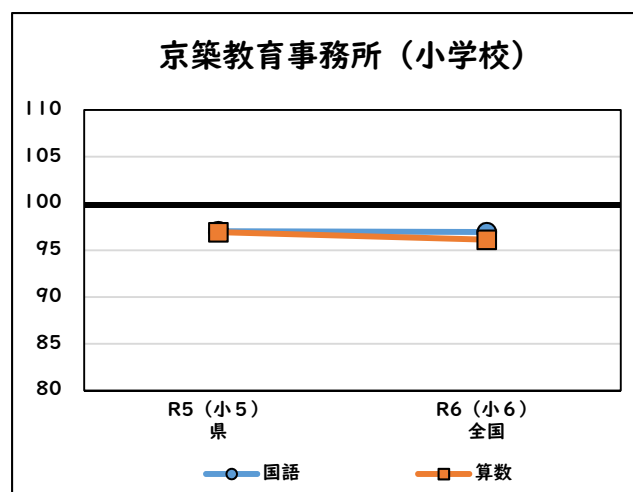
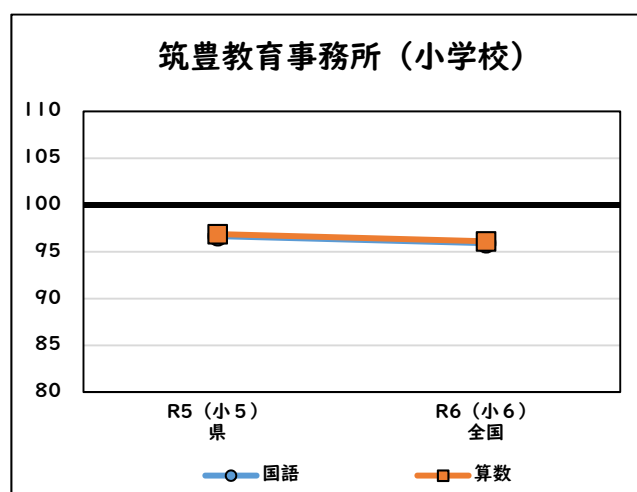
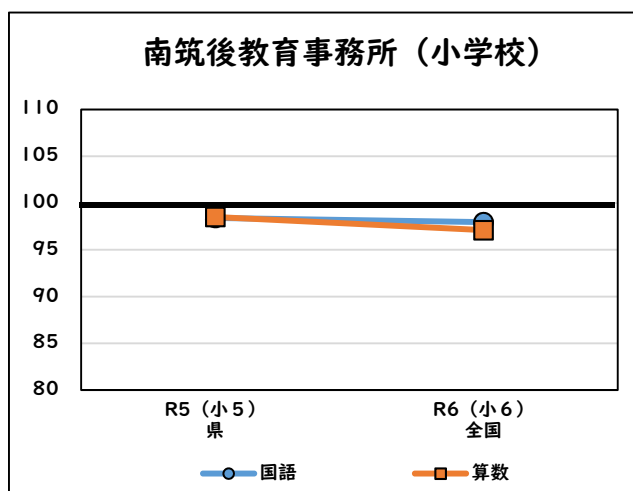
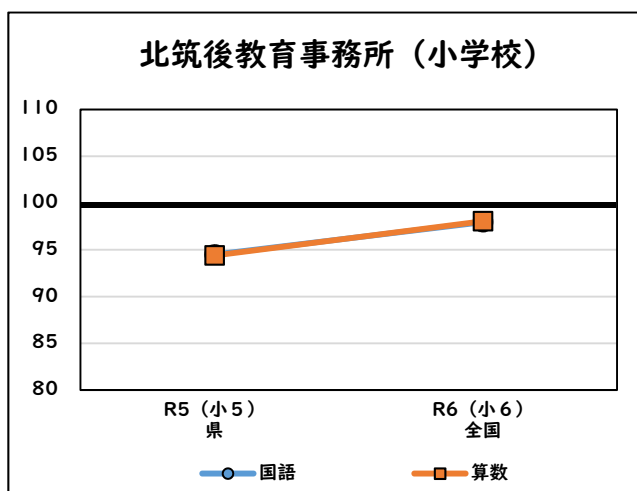
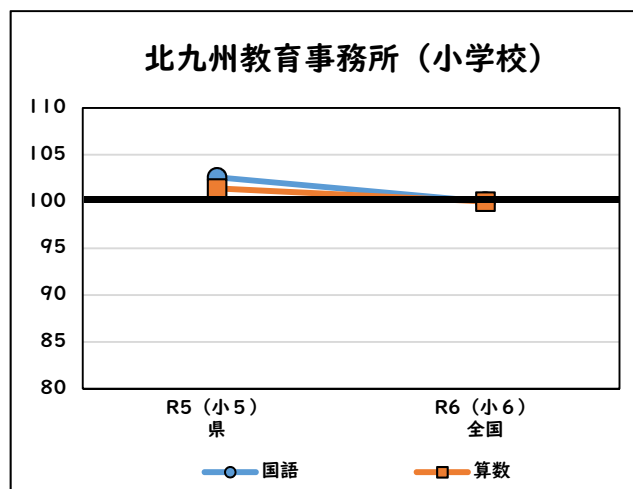
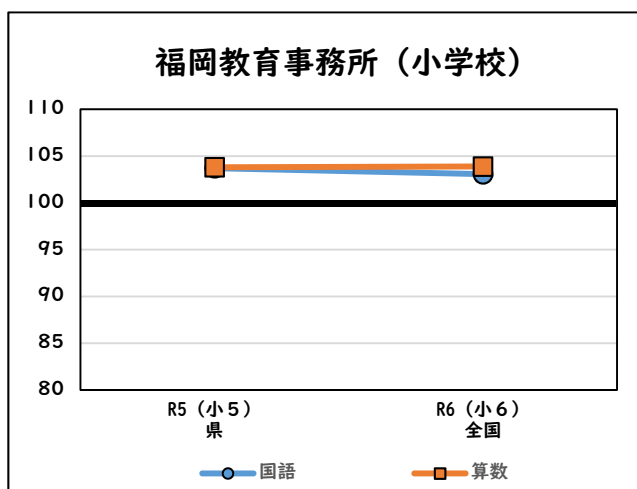


- 7地区中2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区すべてが下降した。

(3) 同一集団の標準化得点の推移

同一集団

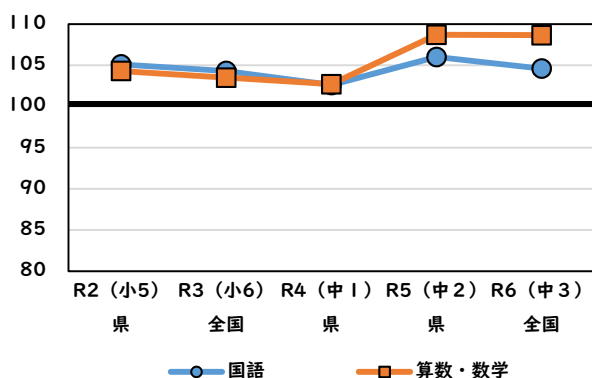
ア 令和5年度小学校5年生(県調査)～令和6年度小学校6年生(全国調査 ※県の平均正答数を100)の推移



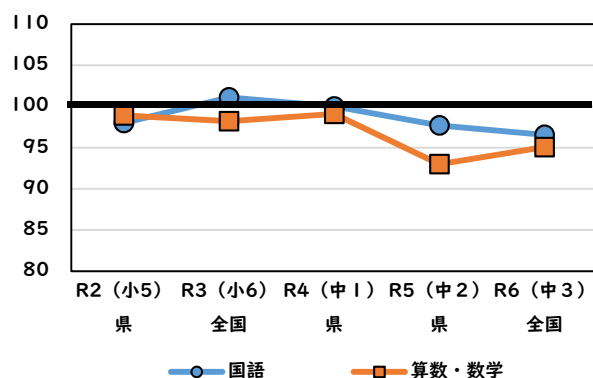
全ての児童生徒の学力を育成していくために、同じ児童生徒集団の学力の状況を追跡し、経年で分析することで指導や支援の効果の検証が可能になります。

イ 同一集団の令和2年度小学校5年生(県調査)～令和6年度中学校3年生(全国調査 ※県の平均正答数を100)の推移

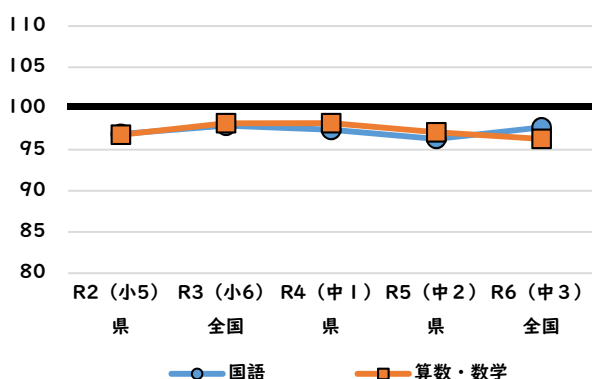
福岡教育事務所(中学校)



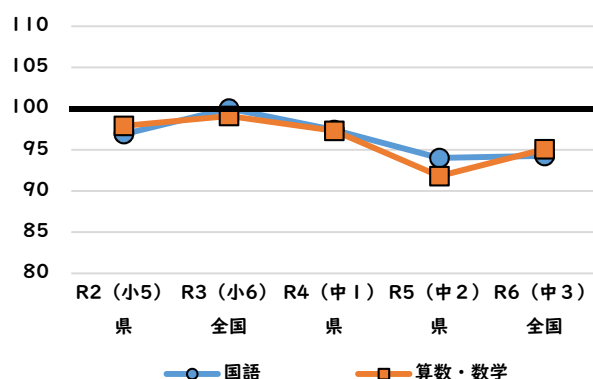
北九州教育事務所(中学校)



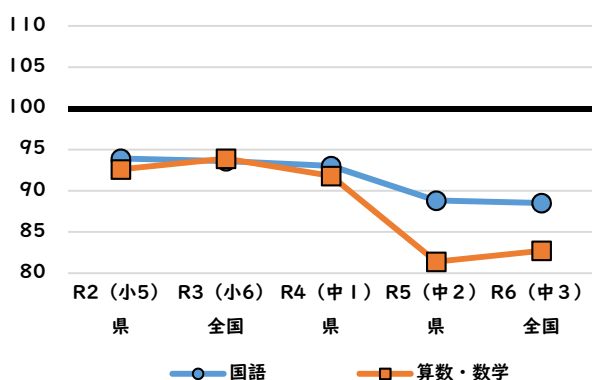
北筑後教育事務所(中学校)



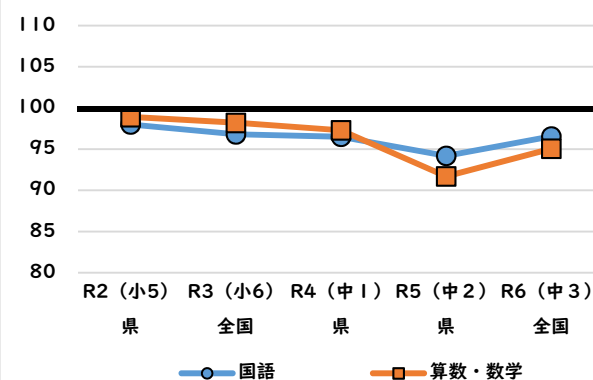
南筑後教育事務所(中学校)



筑豊教育事務所(中学校)



京築教育事務所(中学校)



(4) 本県の学力層(四分位)の結果

ア 学力層(四分位)とは

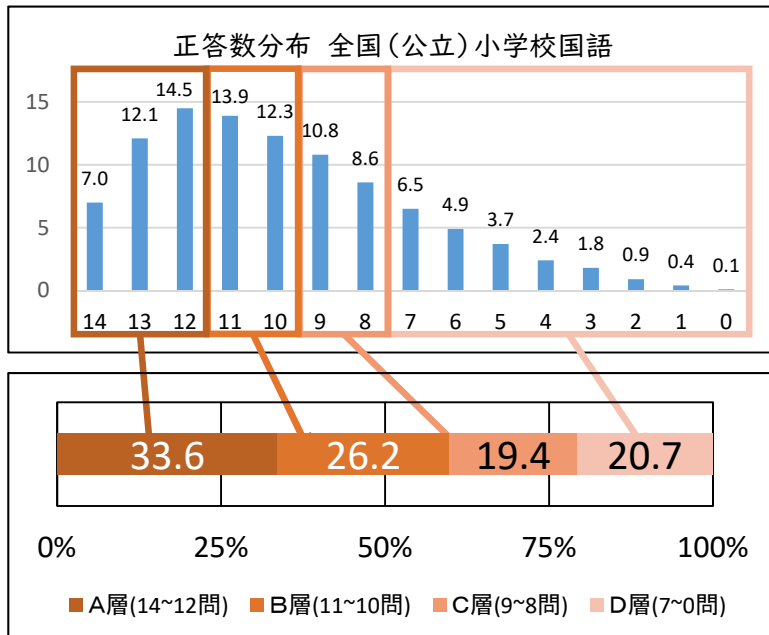
各正答数の児童生徒の割合の合計について、正答数が多い方から順に25%、50%、75%を基準として区切り、それぞれA層、B層、C層、D層としたもの。

(例) 令和5年度全国学力・学習状況調査(小学校国語)【全国(公立)の結果】

正答数分布グラフは、横軸に正答数、縦軸に割合を表している。

正答数の割合を積算していき、25%、50%、75%を超えた正答数が各層の区切りとなる。

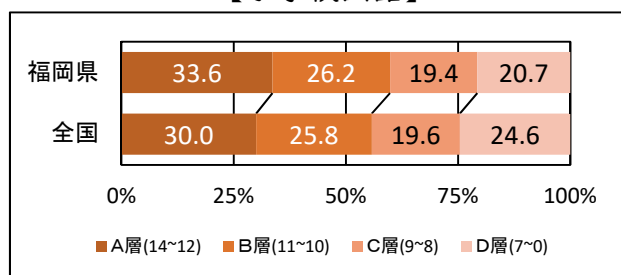
学力層(四分位)の区切りとなる25%、50%、75%を含む正答数の人数は全て、上位の層に含まれるため、各層はきれいに25%ずつにならず、前後する。



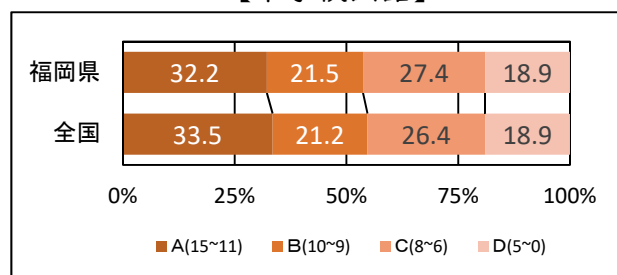
イ 本年度の本県と全国の学力層(四分位)の結果

全国の学力層(四分位)と同じ区切りで本県の学力層(四分位)を算出し比較する。

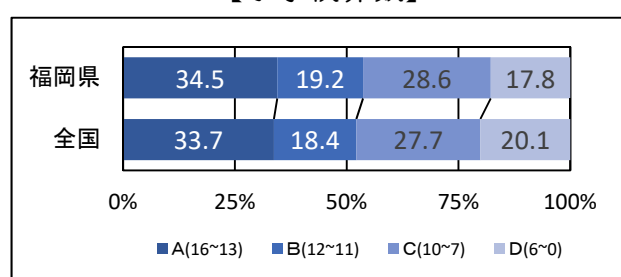
【小学校国語】



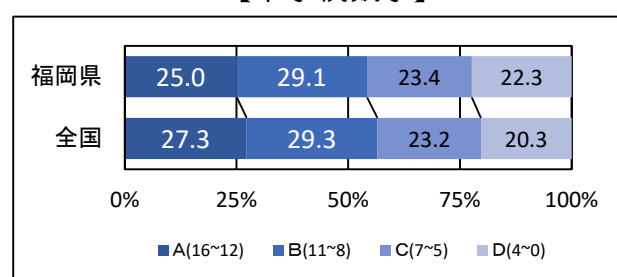
【中学校国語】



【小学校算数】



【中学校数学】



※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならないことがある。

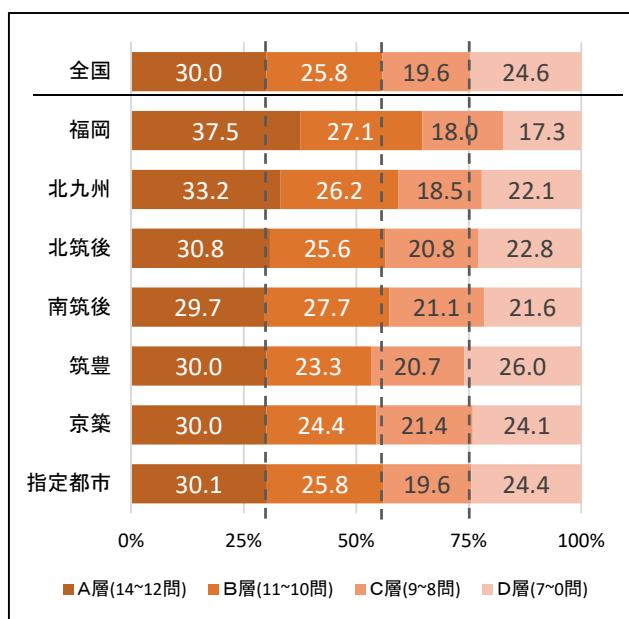
ウ 本年度の各地区の学力層（四分位）の結果

全国の学力層（四分位）と同じ区切りで各地区の学力層（四分位）を算出し比較する。

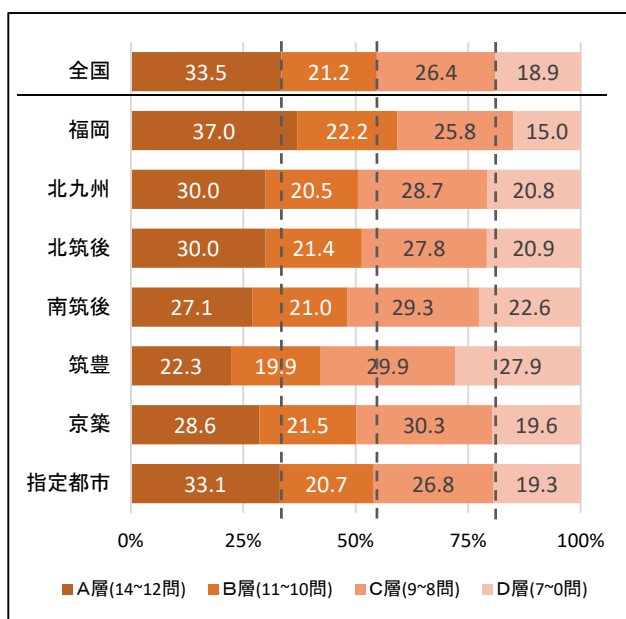
○本県の「確かな学力の育成」に係る目標値（「令和6年度福岡県教育施策実施計画」より）
「全国学力・学習状況調査における学力上位層の構成割合が全国平均を上回る地区数（指定都市を除く。）」

	目標		R6実績
小学校	国語	6地区	4/6地区
	算数	6地区	2/6地区
中学校	国語	6地区	1/6地区
	数学	6地区	1/6地区

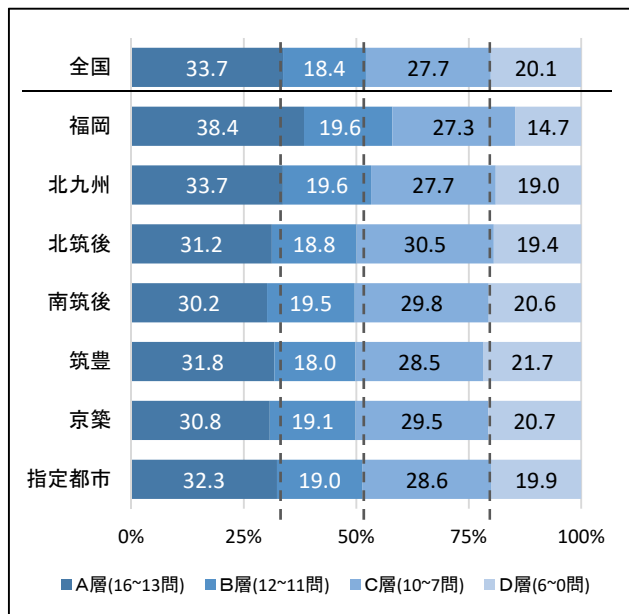
【小学校国語】



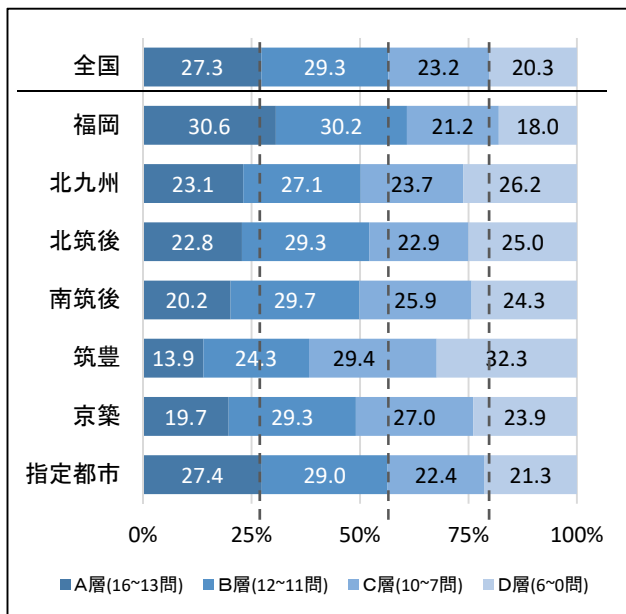
【中学校国語】



【小学校算数】



【中学校数学】



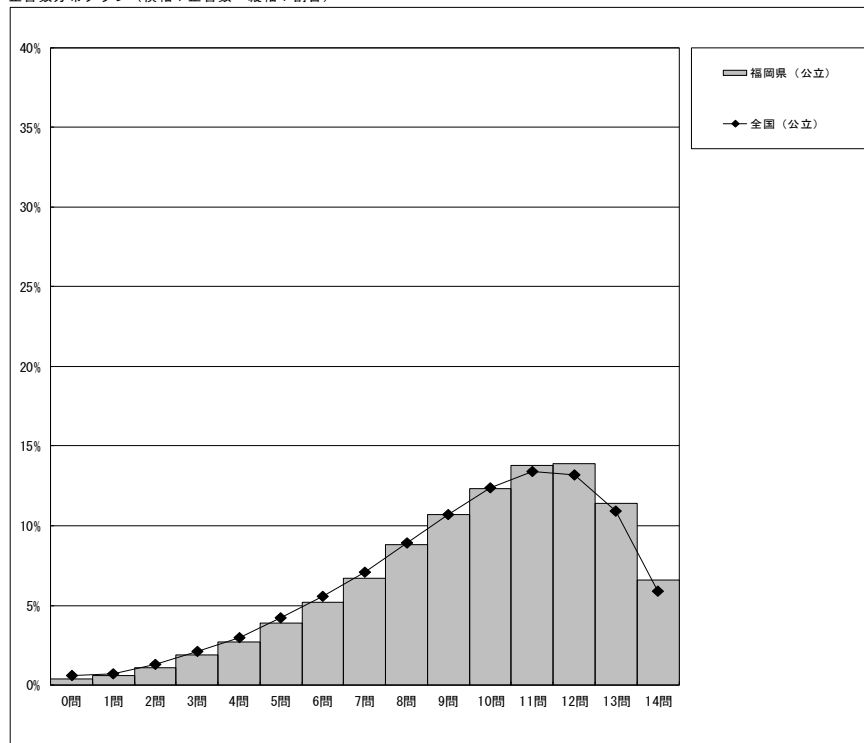
Ⅳ 各教科の調査結果

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

Ⅰ 小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	42,540	9.7 / 14	69	10.0	3.0
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	2,811	6.6	5.9
13問	4,868	11.4	10.9
△ 12問	5,924	13.9	13.2
11問	5,868	13.8	13.4
◇ 10問	5,216	12.3	12.4
9問	4,566	10.7	10.7
▽ 8問	3,748	8.8	8.9
7問	2,851	6.7	7.1
6問	2,203	5.2	5.6
5問	1,658	3.9	4.2
4問	1,135	2.7	3.0
3問	821	1.9	2.1
2問	481	1.1	1.3
1問	241	0.6	0.7
0問	149	0.4	0.6

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)

【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2ニ 記述式	◇ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	60.4	56.6	+3.8
2三 ア 短答式	◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	46.8	43.4	+3.4
3一 選択式	◆ 文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかどうかをみる	62.1	62.3	-0.2
3二 (1) 選択式	◆ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	66.7	66.9	-0.2



小学校国語では、特に、「文の中における主語と述語の関係を捉えること」に課題が見られました。

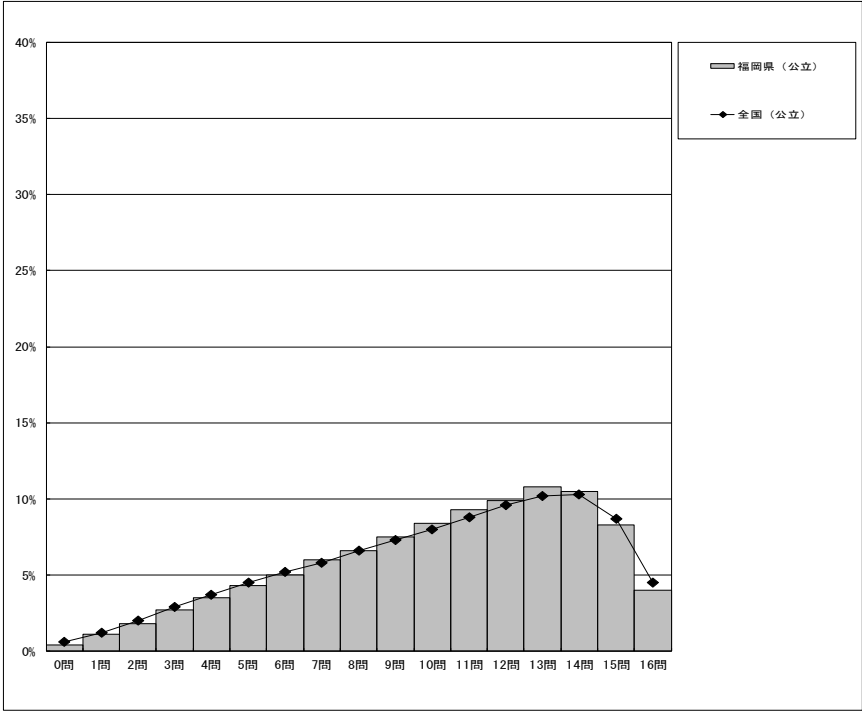
学習指導に当たっては、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々にあることや、主語と述語が離れて表されている場合があることを理解するような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 公立	全国 公立	福岡県 公立	全国 公立
1ー	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	63.5	62.5	0.4	0.7
1二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	77.0	75.9	0.4	0.6
1二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	53.8	52.9	0.4	0.7
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	65.6	63.8	0.6	0.9
2ー (1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	81.2	80.3	0.5	0.9
2ー (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	87.5	86.9	0.5	0.9
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	60.4	56.6	3.9	4.9
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	46.8	43.4	10.0	13.2
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）		78.0	76.0	5.8	8.0
3ー	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	62.1	62.3	1.4	2.0
3二 (1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	66.7	66.9	1.8	2.6
3二 (2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる	73.3	72.5	2.0	2.9
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	75.2	72.6	10.2	12.6
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	75.5	74.6	5.7	7.6

2 小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	42,553	10.2 / 16	64	11.0	3.8
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
16問	1,694	4.0	4.5
15問	3,514	8.3	8.7
14問	4,449	10.5	10.3
13問	4,588	10.8	10.2
12問	4,203	9.9	9.6
11問	3,943	9.3	8.8
10問	3,595	8.4	8.0
9問	3,209	7.5	7.3
8問	2,816	6.6	6.6
7問	2,553	6.0	5.8
6問	2,129	5.0	5.2
5問	1,831	4.3	4.5
4問	1,475	3.5	3.7
3問	1,130	2.7	2.9
2問	776	1.8	2.0
1問	467	1.1	1.2
0問	181	0.4	0.6

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2(1) 記述式	◇ 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	59.5	56.9	+2.6
4(1) 短答式	◇ 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	72.6	70.1	+2.5
3(3) 短答式	◆ 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	35.2	36.5	-1.3
4(4) 短答式	◆ 速さの意味について理解しているかどうかをみる	53.3	54.1	-0.8
1(2) 選択式	◆ 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	87.7	88.5	-0.8



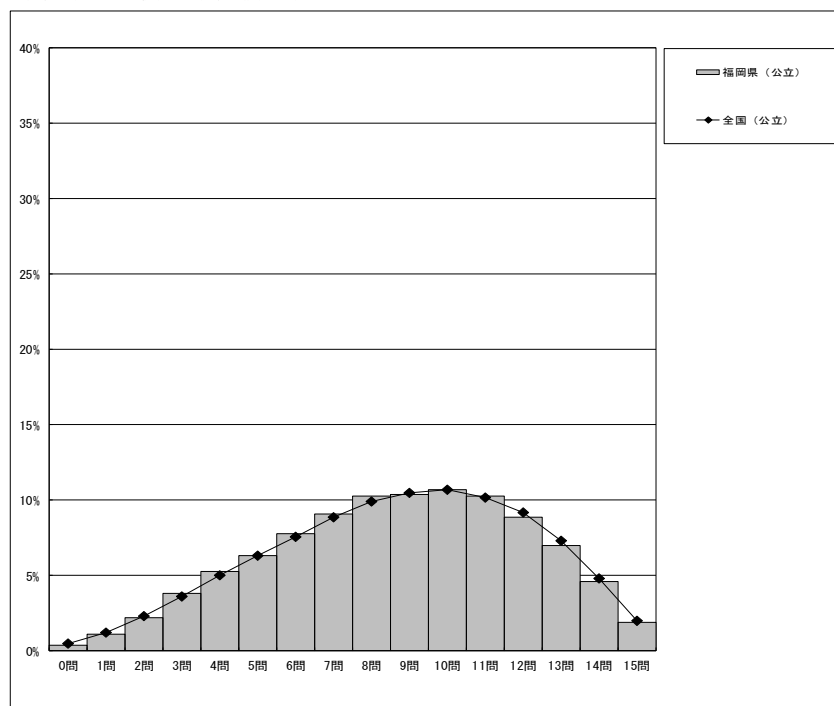
小学校算数では、特に、「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと」に課題が見られました。
学習指導に当たっては、身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断するような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 公立	全国 公立	福岡県 公立	全国 公立
1 (1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	63.7	62.1	0.1	0.2
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	87.7	88.5	0.1	0.3
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	59.5	56.9	2.7	3.4
2 (2)	除数が $1 \div 10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	70.1	69.1	0.8	1.3
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	85.7	85.5	0.4	0.6
3 (2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	71.8	71.3	0.5	0.8
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	35.2	36.5	8.1	9.8
3 (4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	72.7	72.0	1.3	1.8
4 (1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	72.6	70.1	2.1	3.1
4 (2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	69.3	70.0	2.4	3.3
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	30.7	31.0	1.6	2.4
4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	53.3	54.1	3.5	4.6
5 (1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	81.7	80.8	1.4	1.8
5 (2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	73.3	73.3	2.9	3.9
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	43.8	44.0	11.3	12.6
5 (4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	49.0	49.3	3.4	4.0

3 中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	39,558	8.7 / 15	58	9.0	3.3
全国（公立）	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
15問	732	1.9	2.0
14問	1,806	4.6	4.8
13問	2,779	7.0	7.3
12問	3,513	8.9	9.2
11問	4,093	10.3	10.2
10問	4,245	10.7	10.7
9問	4,108	10.4	10.5
8問	4,061	10.3	9.9
7問	3,584	9.1	8.9
6問	3,091	7.8	7.6
5問	2,494	6.3	6.3
4問	2,088	5.3	5.0
3問	1,492	3.8	3.6
2問	871	2.2	2.3
1問	449	1.1	1.2
0問	152	0.4	0.5

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴（全国との差の大きい問題を抽出）

【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題（◇）、低い問題（◆）】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3三 短答式	◇ 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	71.5	68.8	+2.7
1四 記述式	◇ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	45.8	44.7	+1.1
2四 記述式	◆ 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	40.5	42.6	-2.1
4二 短答式	◆ 短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	47.1	48.3	-1.2
3一 選択式	◆ 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	80.2	81.4	-1.2



中学校国語では、特に、「目的に応じて必要な情報に着目して要約すること」に課題が見られました。

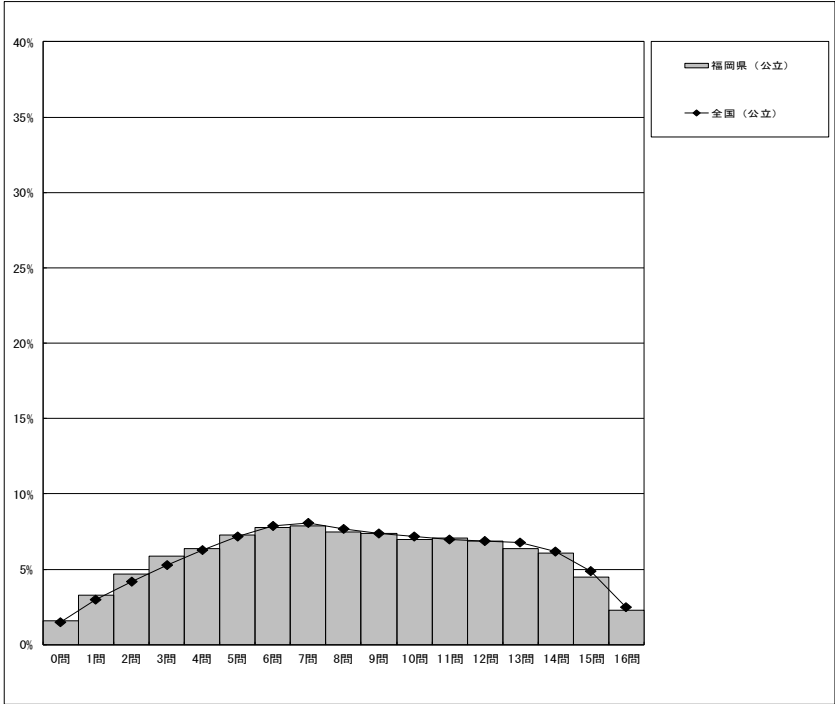
学習指導に当たっては、目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約するような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 公立	全国 公立	福岡県 公立	全国 公立
1 一	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	62.9	63.2	0.2	0.4
1 二	話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる	67.6	68.5	3.3	3.5
1 三	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	43.8	44.0	0.3	0.5
1 四	話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	45.8	44.7	9.3	9.9
2 一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	35.3	36.3	0.3	0.5
2 二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	74.1	75.2	0.4	0.6
2 三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	63.5	64.5	0.4	0.6
2 四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	40.5	42.6	6.9	8.4
3 一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	80.2	81.4	0.4	0.7
3 二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	52.7	53.8	0.8	1.0
3 三	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	71.5	68.8	9.1	10.2
3 四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	49.8	49.3	13.9	15.0
4 一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	55.5	54.9	1.5	1.8
4 二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	47.1	48.3	3.2	3.4
4 三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	75.9	75.6	1.9	2.3

4 中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	39,577	8.2 / 16	51	8.0	4.2
全国（公立）	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
16問	907	2.3	2.5
15問	1,772	4.5	4.9
14問	2,399	6.1	6.2
13問	2,542	6.4	6.8
△ 12問	2,716	6.9	6.9
11問	2,822	7.1	7.0
10問	2,777	7.0	7.2
9問	2,937	7.4	7.4
◇ 8問	2,962	7.5	7.7
7問	3,122	7.9	8.1
6問	3,092	7.8	7.9
▽ 5問	2,873	7.3	7.2
4問	2,520	6.4	6.3
3問	2,327	5.9	5.3
2問	1,860	4.7	4.2
1問	1,302	3.3	3.0
0問	647	1.6	1.5

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	5.0問	5.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
7(3) 選択式	◇ 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	53.2	48.5	+4.7
6(2) 記述式	◇ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	38.6	35.9	+2.7
9(1) 記述式	◆ 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	21.2	25.8	-4.6
9(2) 選択式	◆ 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	23.6	26.7	-3.1



中学校数学では、特に、「筋道を立てて考え、証明すること」に課題が見られました。
学習指導に当たっては、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く過程を、「したがって」、「よって」などの言葉や用語、記号を適切に用いて数学的に表現したり、説明し合ったりするような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 公立	全国 公立	福岡県 公立	全国 公立
1	n を整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	32.0	34.8	11.7	14.3
2	等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	50.1	52.5	10.3	9.7
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる	66.3	68.3	0.2	0.3
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、b の値を変えずに、a の値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	63.4	65.3	0.5	0.7
5	2 枚の 10 円硬貨を同時に投げるとき、2 枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	72.3	73.1	4.5	4.2
6 (1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に 3、－5 を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	88.9	90.2	2.6	2.5
6 (2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の 2 倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	38.6	35.9	23.6	23.5
6 (3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	42.3	41.8	27.8	29.6
7 (1)	障害物からの距離が 10 cm より小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10 cm の位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	74.0	74.3	5.7	5.8
7 (2)	車型ロボットについて「速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5 つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	25.8	25.9	28.0	29.4
7 (3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	53.2	48.5	0.6	0.9
8 (1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフと y 軸との交点 P の y 座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	81.5	83.4	0.5	0.8
8 (2)	18 L の灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	15.8	17.1	13.0	16.4
8 (3)	結衣さんがかけたグラフから、18 L の灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる	75.1	76.9	3.2	3.8
9 (1)	点 C を線分 AB 上にとり、線分 AB について同じ側に正三角形 PAC と QCB をつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	21.2	25.8	31.1	33.6
9 (2)	点 C を線分 AB 上にとり、線分 AB について同じ側に正三角形 PAC と QCB をつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	23.6	26.7	4.4	4.5

【書き込み活用ページ①】 教科に関する調査結果の整理

令和6年度全国学力・学習状況調査結果をもとに学校の取組等を見直す際、以下のような内容については、把握しておくことが重要です。（記入は色塗りの空欄部分）

◆ 調査結果の概要（本報告書：6ページ参照）

		小学校（公立）			中学校（公立）		
		平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率
国語	本校						
	全国	9.5 / 14	(100.0)	67.7	8.7 / 15	(100.0)	58.1
算数 数学	本校						
	全国	10.1 / 16	(100.0)	63.4	8.4 / 16	(100.0)	52.5

◆ 学力層（四分位）の状況（本報告書：12ページ参照）

※「福岡県」には指定都市を含むため、同一集団推移の基準となる「指定都市を除く県の平均」とは異なる。

【小学校国語】

	A層 14~12問	B層 11~10問	C層 9~8問	D層 7~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	33.6%	26.2%	19.4%	20.7%
全国	30.0%	25.8%	19.6%	24.6%

【中学校国語】

	A層 15~11問	B層 10~9問	C層 8~6問	D層 5~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	32.2%	21.5%	27.4%	18.9%
全国	33.5%	21.2%	26.4%	18.9%

【小学校算数】

	A層 16~13問	B層 12~11問	C層 10~7問	D層 6~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	34.5%	19.2%	28.6%	17.8%
全国	33.7%	18.4%	27.7%	20.1%

【中学校数学】

	A層 16~12問	B層 11~8問	C層 7~5問	D層 4~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	25.0%	29.1%	23.4%	22.3%
全国	27.3%	29.3%	23.2%	20.3%

※各層の四捨五入の影響で、
各層の合計が100%となら
ないことがあります。



Ⅰ 児童生徒質問調査に関する調査結果と分析

本県において育成を目指す「資質・能力」である「学びに向かう力、人間性等」の4項目「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「協働する力」の状況について、児童生徒質問調査結果と分析したことを示す。

「選択肢」について

(1：当てはまる、2：どちらかといえば、当てはまる、3：どちらかといえば、当てはまらない、4：当てはまらない)

★(小2 9、中2 9)は、(1：発表していた、2：どちらかといえば、発表していた、3：どちらかといえば、発表していなかった、4：発表していなかった、5：考えを発表する機会はなかった)

☆(小3 3、中3 3)は、(1：当てはまる、2：どちらかといえば、当てはまる、3：どちらかといえば、当てはまらない、4：当てはまらない、5：学級の友達との間で話し合う活動は行っていない)

◆(小・国語、小・算数、中・国語、中・数学)は、(1：全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した、2：書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった、3：書く問題は全く解答しなかった)

※ 本質問項目については、児童生徒質問調査ではなく、教科に関する調査(国語、算数・数学)の中で児童生徒が回答している。

(上段：福岡県の割合、下段：全国の割合(%))

(1、2の枠が太線で囲まれている項目は、全国平均値よりも福岡県の方が高い項目)

(1) 学びを調整する力

番号	質問事項	※選択肢				
		1	2	3	4	5
小2 0	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	28.5	50.2	17.8	3.4	
		30.3	50.4	16.2	3.1	
中2 0		26.7	49.9	19.6	3.3	
		28.2	50.4	18.1	3.0	
★小2 9	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.7	38.2	26.1	10.9	2.1
		25.9	41.7	23.0	7.8	1.7
★中2 9		18.4	37.0	27.1	14.5	2.6
		22.2	42.6	23.3	9.3	2.2
小3 0	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	27.1	52.3	17.7	2.9	
		29.5	52.4	15.6	2.5	
中3 0		25.9	52.1	18.5	3.0	
		27.2	53.1	16.7	2.6	
小3 1	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	28.1	50.1	18.5	3.4	
		29.7	49.9	17.3	3.0	
中3 1		23.9	50.3	21.1	4.1	
		24.7	50.7	20.3	3.7	
☆小3 3	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	40.3	45.1	11.2	2.6	0.8
		41.4	44.9	10.5	2.3	0.8
☆中3 3		36.5	49.1	9.9	2.6	1.2
		36.4	49.7	9.8	2.4	1.1
小3 4	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	30.8	49.5	16.4	3.2	
		31.9	48.9	16.0	3.1	
中3 4		26.8	50.4	18.5	3.4	
		27.1	50.8	18.0	3.2	
小3 5	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	35.1	48.1	13.8	3.0	
		35.9	47.8	13.4	2.8	
中3 5		27.4	51.5	16.8	3.3	
		27.5	51.5	16.5	3.4	

(2) 粘り強く挑む力

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小11	将来の夢や目標を持っていますか	61.7	20.9	9.7	7.7
		60.6	21.8	9.8	7.7
中11		37.9	29.2	19.9	12.4
		36.1	30.2	20.6	12.6
◆小・国語	解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか	81.1	12.8	1.9	
		79.1	14.9	2.2	
◆小・算数	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか	79.8	15.2	1.5	
		78.7	16.8	1.6	
◆中・国語	解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか	73.4	20.3	3.7	
		72.0	21.2	3.8	
◆中・数学	解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか	51.2	40.7	6.7	
		50.0	41.6	6.4	

(3) 自己有用感・自己効力感

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小9	自分には、よいところがあると思いますか	42.1	41.2	11.1	5.6
		43.4	40.7	10.5	5.4
中9		40.1	43.3	11.9	4.4
		40.4	42.9	11.8	4.7
小10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていてと思いますか	48.1	41.6	7.5	2.8
		48.8	41.1	7.3	2.7
中10		43.9	46.2	7.1	2.4
		44.2	46.2	7.0	2.3

(4) 協働する力

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小12	人が困っているときは、進んで助けていますか	45.8	46.9	6.1	1.1
		46.0	46.7	6.2	1.1
中12		37.4	52.3	8.5	1.2
		38.3	51.8	8.3	1.2
小15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	72.5	23.9	2.6	1.0
		71.1	24.8	2.9	1.1
中15		70.4	24.9	3.0	1.1
		68.6	26.6	3.1	1.1
小17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	29.5	45.5	19.1	5.9
		30.3	45.5	18.6	5.5
中17		29.8	45.1	19.5	4.9
		30.3	45.9	18.7	4.5
小25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	38.5	46.0	12.1	3.4
		36.8	46.7	12.9	3.5
中25		27.2	49.8	17.6	5.1
		26.4	49.7	18.1	5.5

- 「粘り強く挑む力」に関わる項目のすべての項目、「協働する力」に関わる項目の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小・中学校ともに全国平均を上回った。
- 「学びを調整する力」については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回った項目がない。

2 学校質問調査に関する調査結果と分析

学びを調整する力の育成及び組織運営に関わる取組状況に係る学校質問調査結果と分析したことを示す。

「選択肢」について	
小(中) 25~29	(1: と思う、2: どちらかといえば、と思う、3: どちらかといえば、と思わない、4: と思わない)
小(中) 30~35	(1: よく行った、2: どちらかといえば、行った、3: あまり行かなかった、4: 全く行かなかった)
小64・中68	(1: 毎日持ち帰って、毎日利用させている、2: 毎日持ち帰って、時々利用させている、3: 時々持ち帰って、時々利用させている、4: 持ち帰らせていない、5: 持ち帰ってはいけないこととしている、6: 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている)
(上段: 福岡県の割合、下段: 全国の割合(%))	
(1、2の枠が太線で囲まれている項目は、全国平均値よりも福岡県の方が高い項目)	

(1) 学びを調整する力の育成に関わる取組状況

番号	質問事項	※選択肢					
		1	2	3	4	5	6
小25	児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	17.5	69.9	12.3	0.1		
		20.1	68.1	11.6	0.2		
中25		24.3	66.4	9.4	0.0		
		20.6	67.8	11.3	0.2		
小26	児童(生徒)は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている	9.5	65.8	24.0	0.4		
		12.4	65.9	21.3	0.4		
中26		16.1	65.5	18.4	0.0		
		16.2	66.5	17.0	0.2		
小27	児童(生徒)は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている	16.1	68.4	15.1	0.3		
		19.6	67.6	12.6	0.2		
中27		23.7	65.5	10.8	0.0		
		24.0	65.7	10.1	0.1		
小28	授業や学校生活では、児童(生徒)が、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	27.1	65.3	7.5	0.0		
		31.7	61.9	6.2	0.1		
中28		36.8	59.9	3.2	0.0		
		37.0	59.1	3.7	0.1		
小29	授業では、児童(生徒)が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている	7.9	55.2	35.2	1.4		
		9.2	52.0	36.4	2.2		
中29		9.4	50.0	38.3	2.3		
		7.9	47.4	41.7	2.9		
小30	学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する	22.7	67.2	9.9	0.0		
		26.5	63.8	9.6	0.0		
中30		24.9	64.9	10.2	0.0		
		21.2	65.1	13.5	0.0		
小31	学習指導において、児童(生徒)が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫する	25.6	67.9	6.4	0.0		
		32.8	61.7	5.3	0.1		
中31		26.3	67.5	5.6	0.3		
		30.4	63.6	5.8	0.1		
小32	授業において、児童(生徒)の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をする	27.3	67.5	5.1	0.0		
		34.0	61.8	4.0	0.0		
中32		33.0	63.2	3.8	0.0		
		31.4	64.9	3.5	0.0		

番号	質問事項	※選択肢					
		1	2	3	4	5	6
小33	授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れる	23.3	64.8	11.6	0.1		
		29.2	60.1	10.5	0.1		
中33		24.6	60.8	14.3	0.3		
		26.1	59.0	14.5	0.3		
小35	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける	15.4	68.2	16.2	0.0		
		18.6	67.1	14.1	0.0		
中35		14.6	69.6	15.8	0.0		
		14.8	63.8	21.2	0.1		
小64	あなたの学校では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	8.8	7.5	66.7	8.8	0.8	6.9
		21.9	14.3	50.1	7.3	1.0	5.3
中68		17.5	13.7	49.7	11.1	0.3	7.6
		26.6	18.9	38.9	8.7	1.7	5.1

(2) 組織運営に関わる取組状況

「選択肢」について	
小(中) 9~10	(1:週に1回程度、または、それ以上行った、2:月に数回程度行った、3:学期に数回程度行った、4:年に数回程度行った、5:行わなかった、6:特に問題を抱えていなかった)
小(中) 13	(1:よくしている、2:どちらかといえば、している、3:あまりしていない、4:全くしていない)
(上段:福岡県の割合、下段:全国の割合(%))	
(1、2の枠が太線で囲まれている項目は、全国平均値よりも福岡県の方が高い項目)	

番号	質問事項	※選択肢					
		1	2	3	4	5	6
小9	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行う	51.4	34.9	10.0	2.3	0.1	1.1
		43.7	35.2	13.8	3.7	0.1	3.5
中9		35.7	39.8	17.8	4.4	0.0	2.3
		31.7	33.0	21.3	8.3	0.2	5.4
小10	教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行う	67.5	24.7	5.5	1.8	0.0	0.3
		59.5	28.0	8.4	2.4	0.0	1.5
中10		48.5	33.6	12.0	3.8	0.3	1.8
		46.7	30.6	13.8	5.7	0.1	2.9
小13	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	38.0	58.9	2.8	0.0		
		40.4	56.6	2.9	0.0		
中13		42.7	53.2	4.1	0.0		
		40.5	56.0	3.4	0.0		

- 「学びを調整する力の育成に関わる取組状況」の「授業では、児童（生徒）が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」、「組織運営に関わる取組状況」の「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行う」、「教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行う」については、肯定的な回答をした学校の割合が、小・中学校ともに全国平均を上回った。

【書き込み活用ページ②】 質問調査結果の整理

令和6年度全国学力・学習状況調査結果をもとに取組等を見直す際、以下のような内容については、各学校で把握しておくことが重要です。（記入は色塗りの空欄部分）

◆ 児童生徒質問調査結果（本報告書：24、25ページ参照）

小学校用

（1）学びを調整する力

20_ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	28.5%	50.2%	17.8%	3.4%
全国	30.3%	50.4%	16.2%	3.1%

30_ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	27.1%	52.3%	17.7%	2.9%
全国	29.5%	52.4%	15.6%	2.5%

33_ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

	①	②	③	④	⑤
本校	%	%	%	%	%
福岡県	40.3%	45.1%	11.2%	2.6%	0.8%
全国	41.4%	44.9%	10.5%	2.3%	0.8%

35_ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	35.1%	48.1%	13.8%	3.0%
全国	35.9%	47.8%	13.4%	2.8%

29_ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

	①	②	③	④	⑤
本校	%	%	%	%	%
福岡県	22.7%	38.2%	26.1%	10.9%	2.1%
全国	25.9%	41.7%	23.0%	7.8%	1.7%

31_ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	28.1%	50.1%	18.5%	3.4%
全国	29.7%	49.9%	17.3%	3.0%

34_ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	30.8%	49.5%	16.4%	3.2%
全国	31.9%	48.9%	16.0%	3.1%

(2) 粘り強く挑む力

11_将来の夢や目標を持っていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	61.7%	20.9%	9.7%	7.7%
全国	60.6%	21.8%	9.8%	7.7%

国語_今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか

	①	②	③
本校	%	%	%
福岡県	81.1%	12.8%	1.9%
全国	79.1%	14.9%	2.2%

算数_今回の算数の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか

	①	②	③
本校	%	%	%
福岡県	79.8%	15.2%	1.5%
全国	78.7%	16.8%	1.6%

(3) 自己有用感・自己効力感

9_自分には、よいところがあると思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	42.1%	41.2%	11.1%	5.6%
全国	43.4%	40.7%	10.5%	5.4%

10_先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	48.1%	41.6%	7.5%	2.8%
全国	48.8%	41.1%	7.3%	2.7%

(4) 協働する力

12_人が困っているときは、進んで助けていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	45.8%	46.9%	6.1%	1.1%
全国	46.0%	46.7%	6.2%	1.1%

15_人の役に立つ人間になりたいと思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	72.5%	23.9%	2.6%	1.0%
全国	71.1%	24.8%	2.9%	1.1%

17_自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	29.5%	45.5%	19.1%	5.9%
全国	30.3%	45.5%	18.6%	5.5%

25_地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	38.5%	46.0%	12.1%	3.4%
全国	36.8%	46.7%	12.9%	3.5%

令和6年度全国学力・学習状況調査結果をもとに取組等を見直す際、以下のような内容については、各学校で把握しておくことが重要です。（記入は色塗りの空欄部分）

◆ 児童生徒質問調査結果（本報告書：24、25ページ参照）

中学校用

（１）学びを調整する力

20_分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	26.7%	49.9%	19.6%	3.3%
全国	28.2%	50.4%	18.1%	3.0%

30_課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	25.9%	52.1%	18.5%	3.0%
全国	27.2%	53.1%	16.7%	2.6%

33_話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

	①	②	③	④	⑤
本校	%	%	%	%	%
福岡県	36.5%	49.1%	9.9%	2.6%	1.2%
全国	36.4%	49.7%	9.8%	2.4%	1.1%

35_授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	27.4%	51.5%	16.8%	3.3%
全国	27.5%	51.5%	16.5%	3.4%

29_自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

	①	②	③	④	⑤
本校	%	%	%	%	%
福岡県	18.4%	37.0%	27.1%	14.5%	2.6%
全国	22.2%	42.6%	23.3%	9.3%	2.2%

31_各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	23.9%	50.3%	21.1%	4.1%
全国	24.7%	50.7%	20.3%	3.7%

34_学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	26.8%	50.4%	18.5%	3.4%
全国	27.1%	50.8%	18.0%	3.2%

(2) 粘り強く挑む力

11_将来の夢や目標を持っていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	37.9%	29.2%	19.9%	12.4%
全国	36.1%	30.2%	20.6%	12.6%

国語_今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか

	①	②	③
本校	%	%	%
福岡県	73.4%	20.3%	3.7%
全国	72.0%	21.2%	3.8%

数学_今回の算数の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか

	①	②	③
本校	%	%	%
福岡県	51.2%	40.7%	6.7%
全国	50.0%	41.6%	6.4%

(3) 自己有用感・自己効力感

9_自分には、よいところがあると思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	40.1%	43.3%	11.9%	4.4%
全国	40.4%	42.9%	11.8%	4.7%

10_先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	43.9%	46.2%	7.1%	2.4%
全国	44.2%	46.2%	7.0%	2.3%

(4) 協働する力

12_人が困っているときは、進んで助けていますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	37.4%	52.3%	8.5%	1.2%
全国	38.3%	51.8%	8.3%	1.2%

15_人の役に立つ人間になりたいと思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	70.4%	24.9%	3.0%	1.1%
全国	68.6%	26.6%	3.1%	1.1%

17_自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	29.8%	45.1%	19.5%	4.9%
全国	30.3%	45.9%	18.7%	4.5%

25_地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	27.2%	49.8%	17.6%	5.1%
全国	26.4%	49.7%	18.1%	5.5%

VI

クロス分析の結果

学びに向かう力、
人間性等

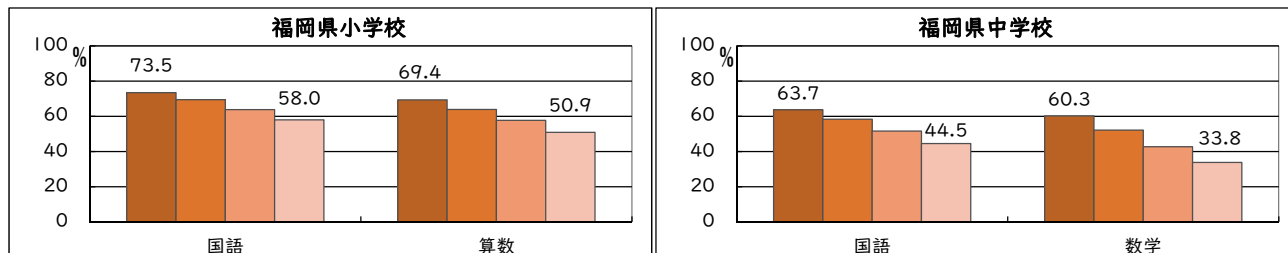


知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

I 児童生徒質問調査〔学びに向かう力、人間性等〕と教科に関する調査〔国語、算数・数学〕のクロス
(1) 学びを調整する力

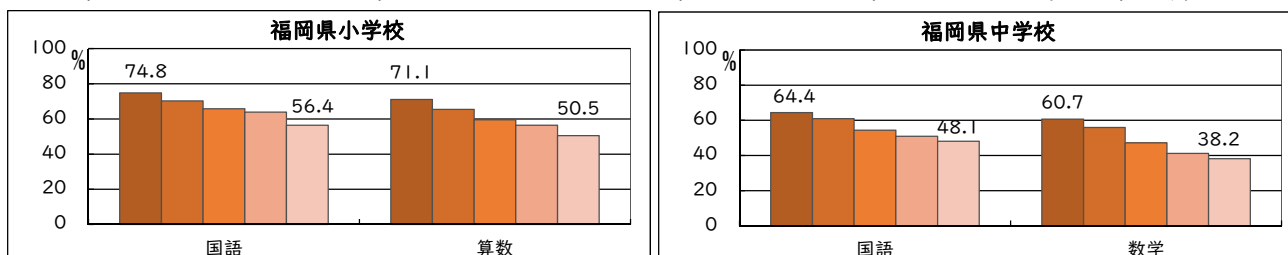
小20 中20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
------------	---

■できている ■どちらかといえば、できている ■どちらかといえば、できていない ■できていない



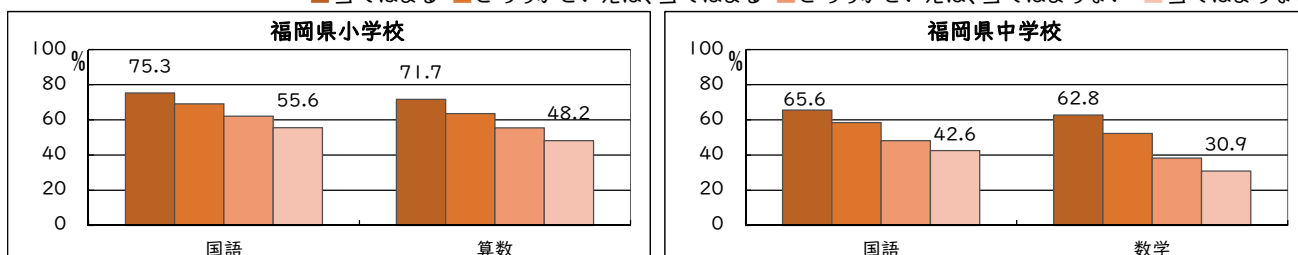
小29 中29	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
------------	---

■発表していた ■どちらかといえば、発表していた ■どちらかといえば、発表していなかった ■発表していなかった ■考えを発表する機会はなかった



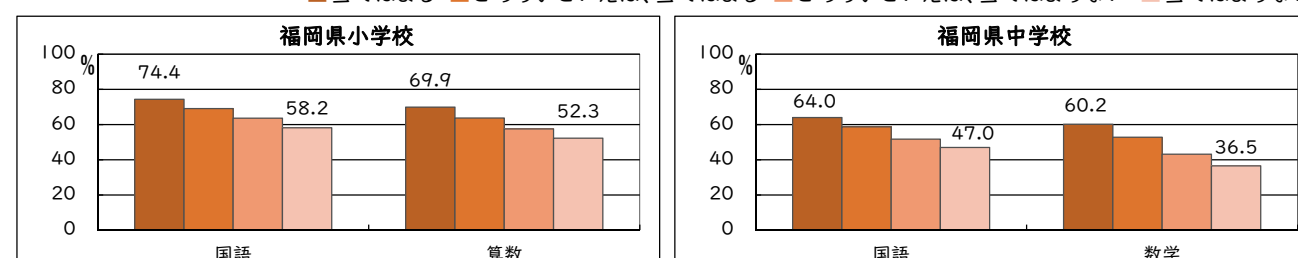
小30 中30	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
------------	-------------------------------------

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



小31 中31	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
------------	---

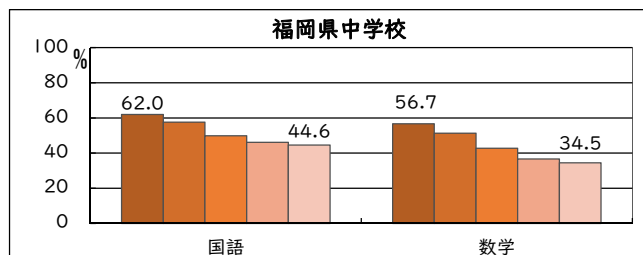
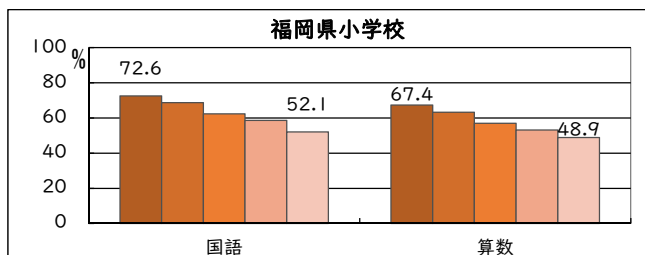
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



小33
中33

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

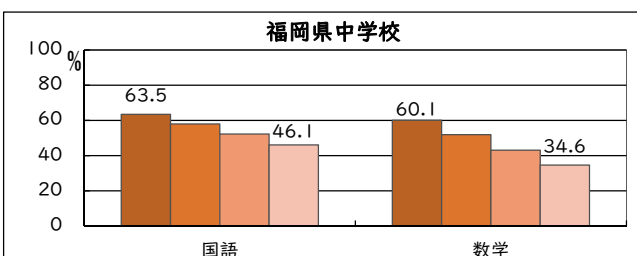
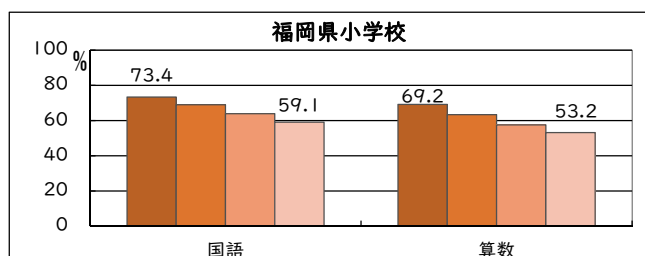
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



小34
中34

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

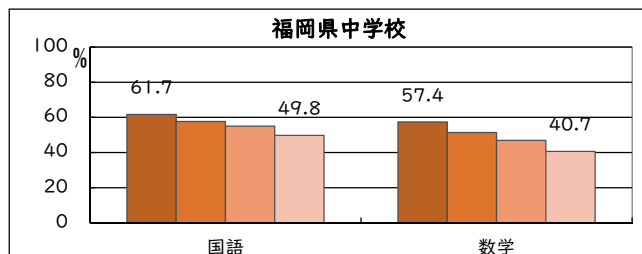
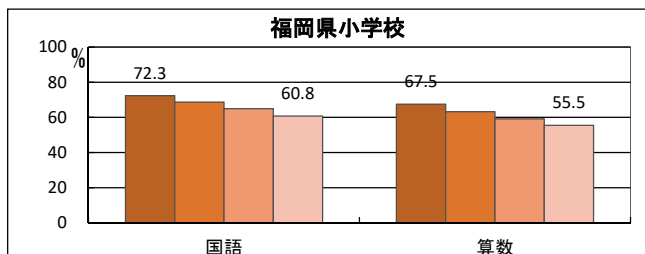
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



小35
中35

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

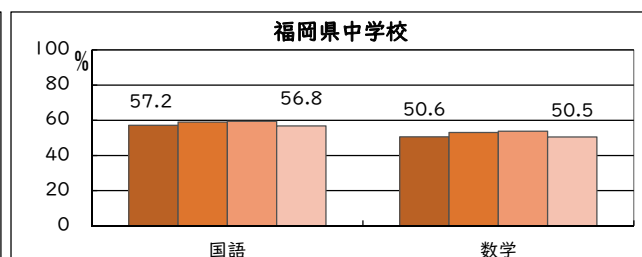
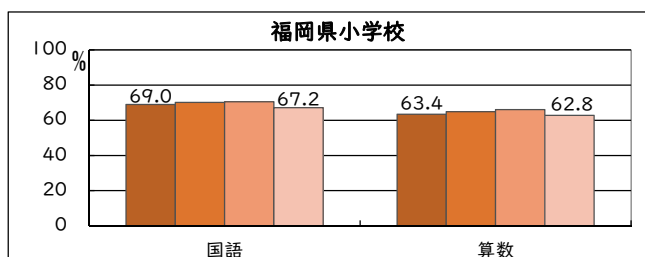


(2) 粘り強く挑む力

小11
中11

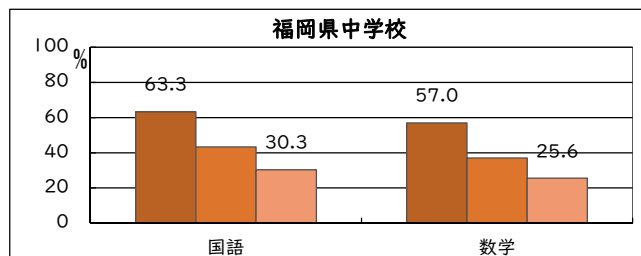
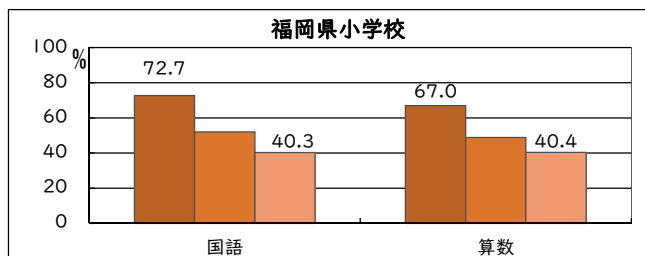
将来の夢や目標を持っていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



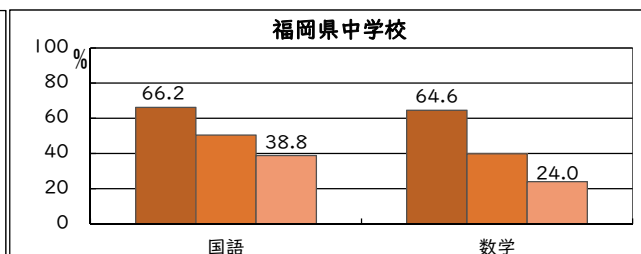
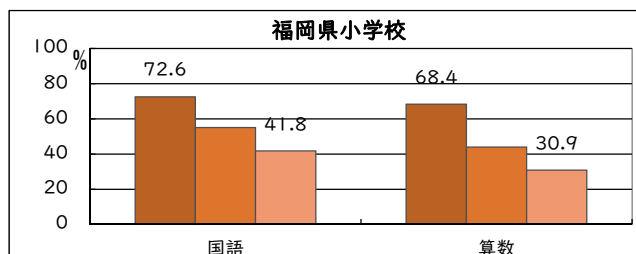
小・国語 中・国語	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか。
--------------	---

- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した ■ 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
 ■ 書く問題は全く解答しなかった



小・算数 中・数学	今回の算数(数学)の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、どのように解答しましたか
--------------	---

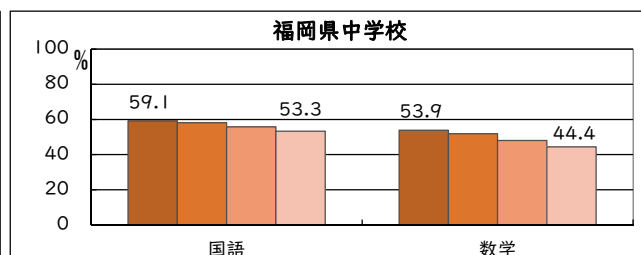
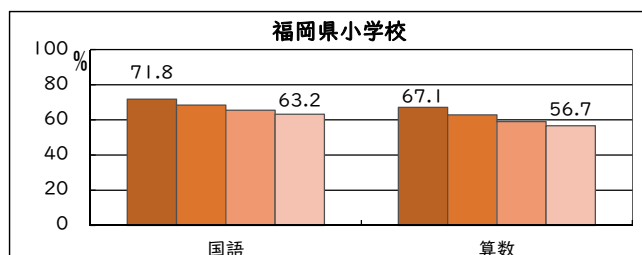
- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した ■ 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
 ■ 書く問題は全く解答しなかった



(3) 自己有用感・自己効力感

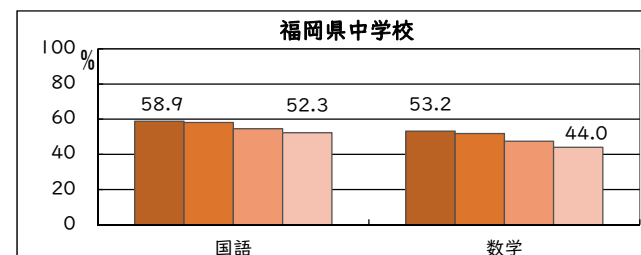
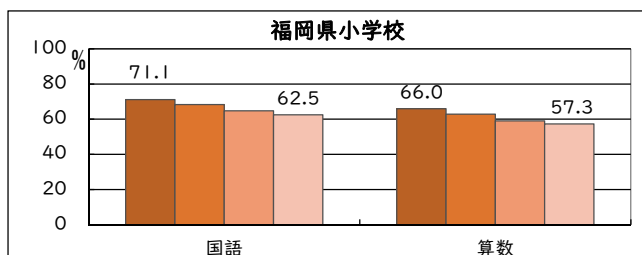
小9 中9	自分には、よいところがあると思いますか
----------	---------------------

- 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



小10 中10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
------------	------------------------------

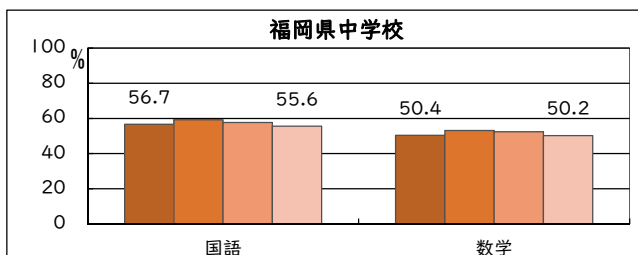
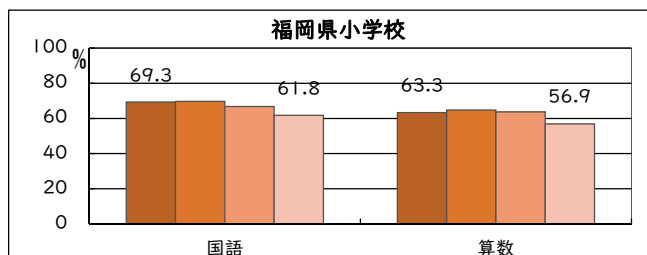
- 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



(4) 協働する力

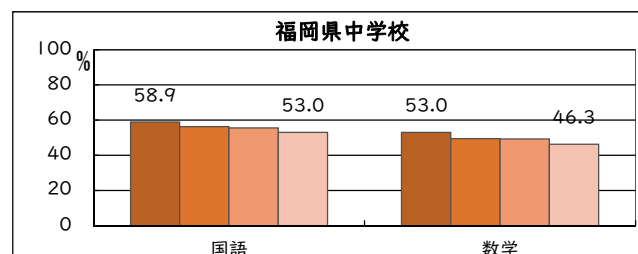
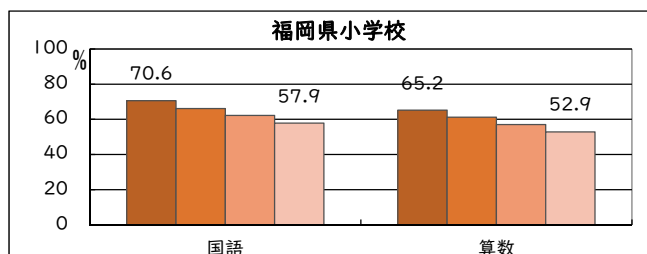
小12 中12	人が困っているときは、進んで助けていますか
------------	-----------------------

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



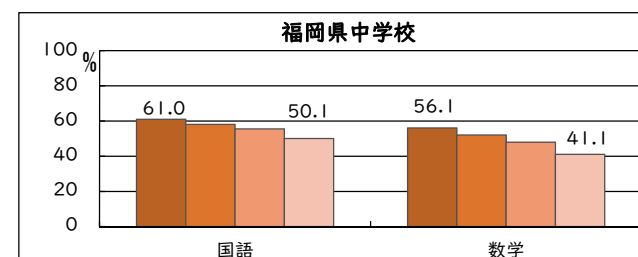
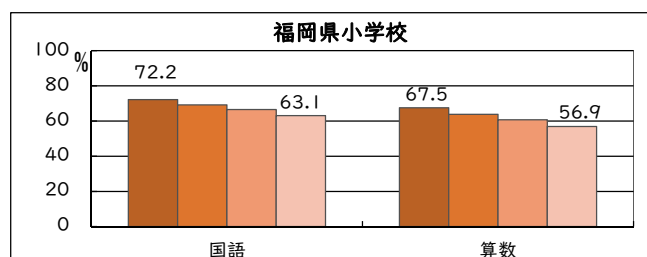
小15 中15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
------------	---------------------

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



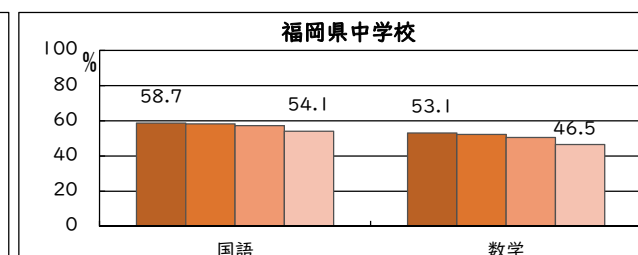
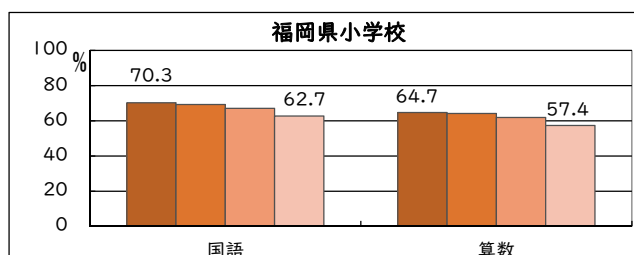
小17 中17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
------------	---------------------------

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



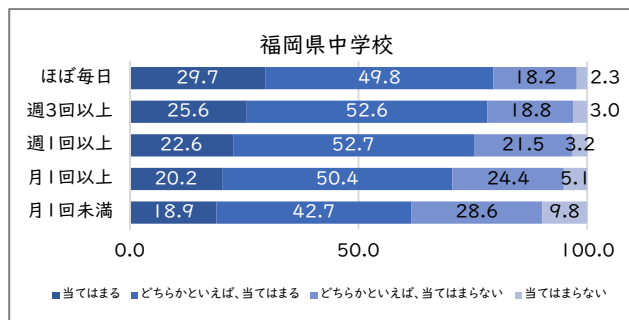
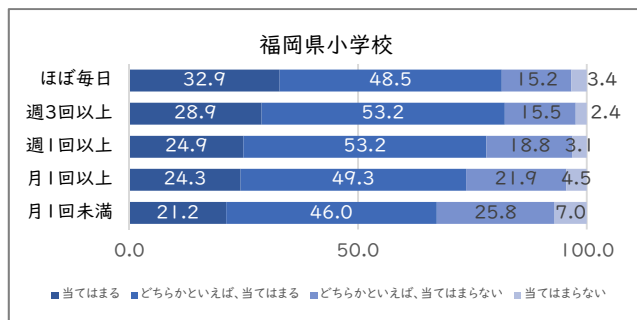
小25 中25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
------------	----------------------------

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

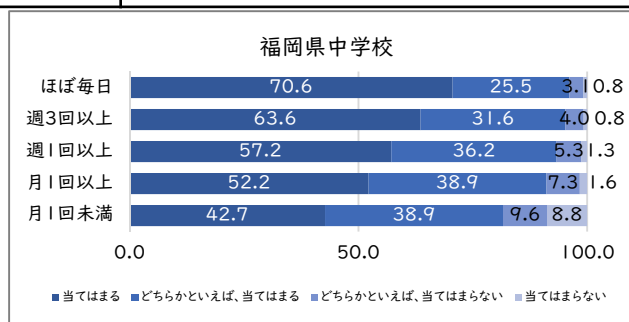
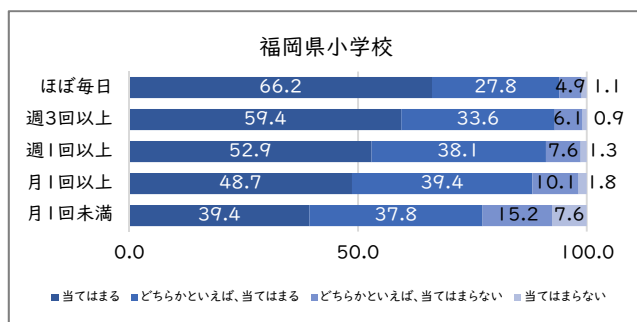


2 児童生徒質問調査〔ICTを活用した学習状況〕と児童生徒質問調査〔学びを調整する力〕のクロス

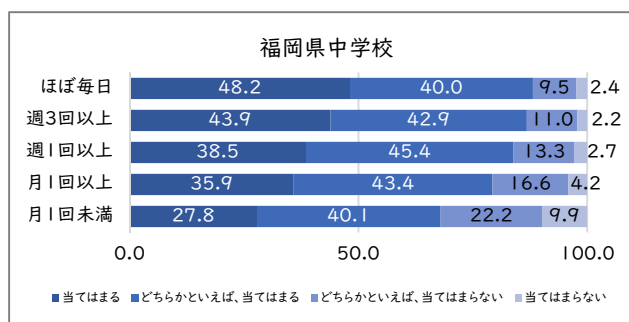
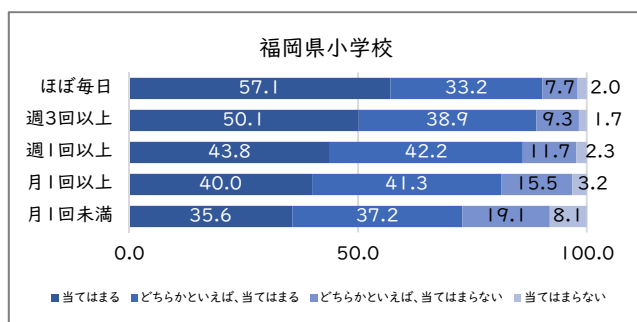
小27 中27	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	×	小20 中20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
------------	-----------------------------------	---	------------	---



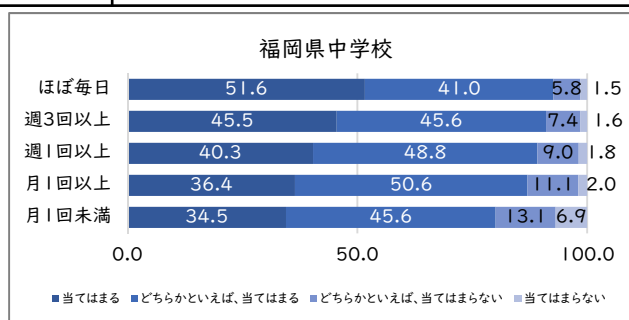
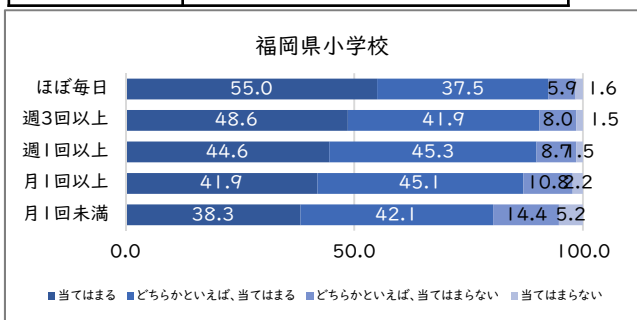
小27 中27	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	×	小29 中29	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
------------	-----------------------------------	---	------------	---



小27 中27	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	×	小30 中30	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
------------	-----------------------------------	---	------------	-------------------------------------



小27 中27	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	×	小31 中31	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
------------	-----------------------------------	---	------------	---



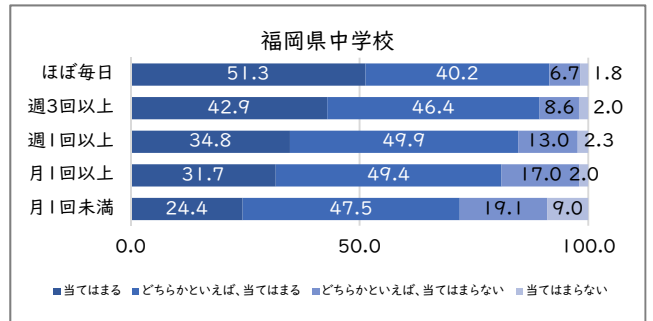
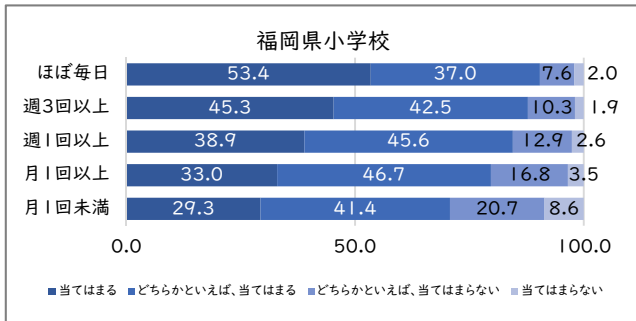
小27
中27

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



小33
中33

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



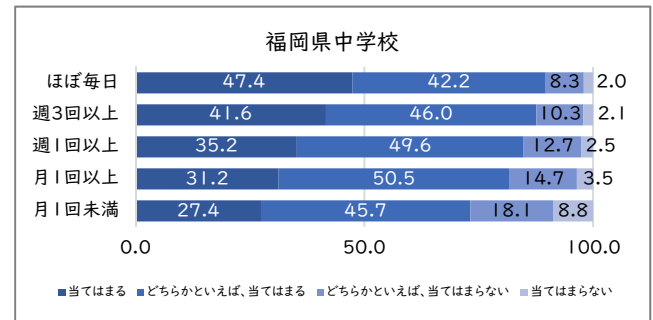
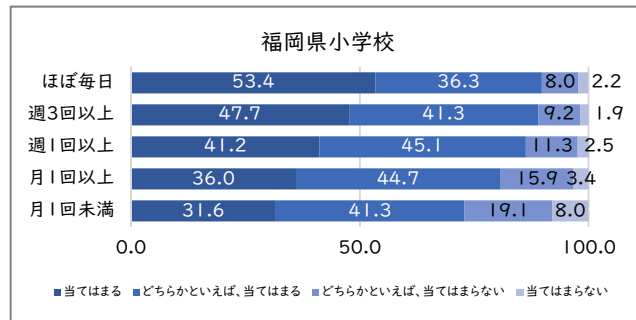
小27
中27

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



小34
中34

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



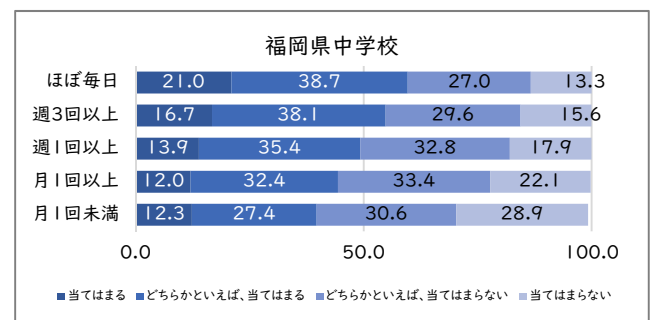
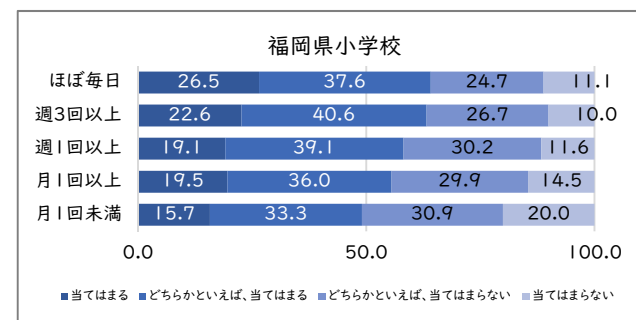
小27
中27

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



小35
中35

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



I 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各市町村（学校組合）教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- ③ 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査対象の学年（指定都市を除く。）

- ① 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ② 公立の中学校第1学年、義務教育学校後期課程第1学年、中等教育学校前期課程第1学年、特別支援学校中学部第1学年
- ③ 公立の中学校第2学年、義務教育学校後期課程第2学年、中等教育学校前期課程第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(3) 調査の教科（実施時間）

- 小学校第5学年 国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1学年 国語、数学（1教科50分で実施）
- 中学校第2学年 国語、数学（1教科50分で実施）

(4) 調査の内容

出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校第1学年においては小学校までの指導事項）とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識・技能」に関する問題及び主として「思考・判断・表現」に関する問題を一体的に問う。

(5) 調査日

令和6年6月18日（火）

(6) 6月18日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

	学校数(校)		児童生徒数(人)	
	国語	算数・数学	国語	算数・数学
小学校第5学年	435	435	21,845	21,855
中学校第1学年	203	203	21,818	21,840
中学校第2学年	207	207	21,447	21,448

※ 学校数は、分校を含む。

(7) 調査問題の内容

○ 領域別の設問数

	国語				算数・数学			
	知識及び技能 (1)(2)(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	小:数と計算 中:数と式	図形	小:変化と関係 中:関数	データの 活用
小学校第5学年	9問	3問	3問	4問	9問	4問	3問	3問
中学校第1学年	8問	3問	4問	3問	8問	4問	3問	4問
中学校第2学年	6問	4問	2問	6問	8問	4問	4問	3問

○ 評価の観点別の設問数

	国語		算数・数学	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
小学校第5学年	9問	10問	10問	9問
中学校第1学年	8問	10問	10問	9問
中学校第2学年	6問	12問	11問	8問

○ 解答形式別の設問数

	国語			算数・数学		
	選択式	短答式	記述式	選択式	短答式	記述式
小学校第5学年	8問	8問	3問	5問	10問	4問
中学校第1学年	8問	7問	3問	3問	12問	4問
中学校第2学年	11問	3問	4問	4問	11問	4問

※ 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題

※ 短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

※ 記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

2 調査結果の概要

(1) 県全体及び地区別の平均正答数、標準化得点、平均正答率

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

標準化得点：県全体の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

○ 小学校第5学年

設問数 国語：19問、算数：19問

		国語					算数				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		12.5	100.0	65.8	73.6	58.7	11.9	100.0	62.5	68.0	56.3
地 区	福岡	13.0	103.8	68.3	75.6	61.7	12.3	103.6	64.7	69.7	59.2
	北九州	12.4	99.2	65.2	74.0	57.2	12.2	102.6	64.1	70.6	56.8
	北筑後	12.0	96.4	63.4	70.3	57.2	11.4	96.1	60.0	65.3	54.2
	南筑後	12.4	99.3	65.3	73.5	58.0	11.8	99.0	61.9	67.7	55.4
	筑豊	11.8	94.1	61.9	71.9	52.9	11.2	94.4	59.0	66.5	50.7
	京築	12.1	96.9	63.8	72.3	56.0	11.3	95.4	59.6	65.3	53.3

○ 中学校第1学年

設問数 国語：18問、数学：19問

		国語					数学				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		11.6	100.0	64.7	70.2	60.3	11.9	100.0	62.4	67.1	57.3
地 区	福岡	12.1	103.6	67.0	72.1	63.0	12.3	103.5	64.6	68.9	59.9
	北九州	11.6	99.6	64.5	70.8	59.4	11.7	98.6	61.6	66.3	56.3
	北筑後	11.4	97.7	63.2	68.1	59.3	11.6	97.9	61.1	65.9	55.8
	南筑後	11.3	97.2	62.9	68.9	58.1	11.6	97.7	61.0	66.1	55.3
	筑豊	10.8	92.5	59.8	66.4	54.5	10.8	90.9	56.8	61.8	51.2
	京築	11.0	94.4	61.1	67.0	56.3	11.2	94.4	58.9	63.8	53.5

- 中学校第2学年
設問数 国語：18問、算数：19問

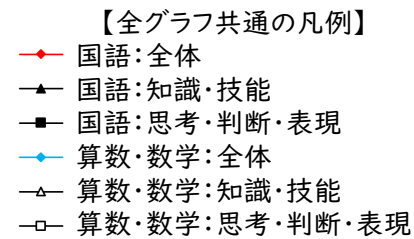
		国語					数学				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		10.1	100.0	55.9	62.2	52.8	9.6	100.0	50.3	64.4	31.0
地 区	福岡	10.4	103.8	58.0	63.8	55.1	10.1	105.4	53.0	67.1	33.7
	北九州	10.0	99.1	55.4	61.8	52.2	9.3	96.8	48.7	62.7	29.5
	北筑後	9.8	97.7	54.6	61.2	51.3	9.1	95.5	48.0	62.1	28.7
	南筑後	9.5	94.9	53.0	59.3	49.9	9.1	95.1	47.9	62.4	27.9
	筑豊	9.2	90.9	50.8	58.9	46.8	8.4	87.4	44.0	57.7	25.1
	京築	10.0	99.4	55.5	62.5	52.1	9.6	100.0	50.3	64.6	30.7

(2) 全体の状況

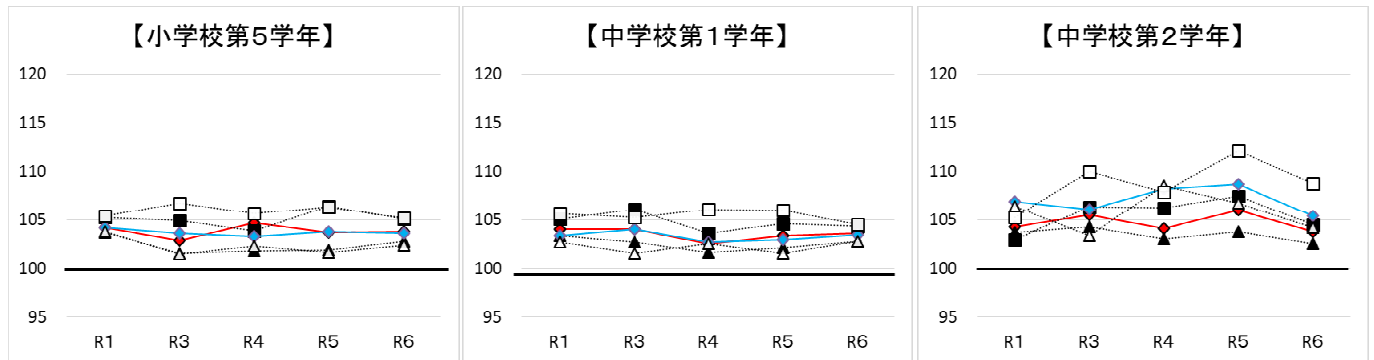
- 国語、算数・数学ともに、「全体」の平均正答率は、小学5年生が最も高い。
- 国語の「知識・技能」の正答率は、小学5年生が最も高く、「思考・判断・表現」の正答率は中学1年生が最も高い。
- 算数・数学の「知識・技能」の正答率は、小学5年生が最も高く、「思考・判断・表現」の正答率は中学1年生が最も高い。

(3) 地区別の標準化得点の推移

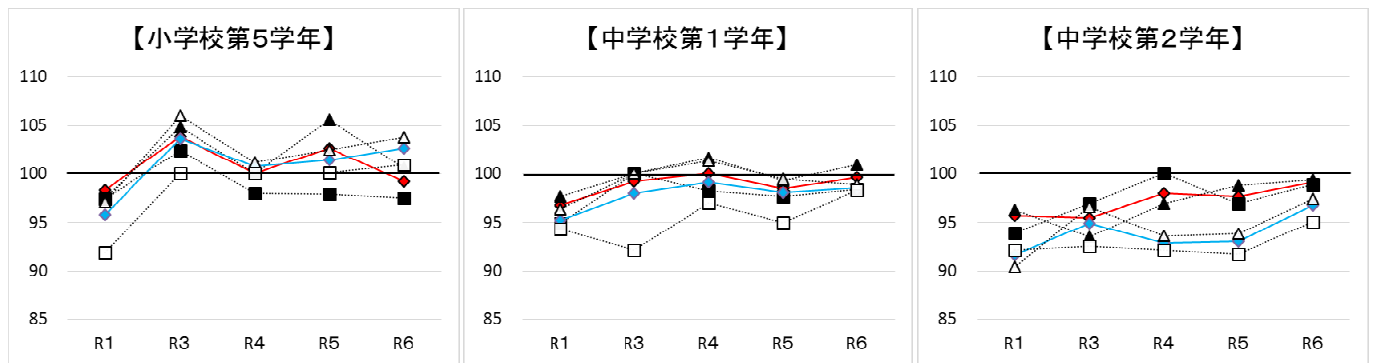
① 5年間の当該学年の推移



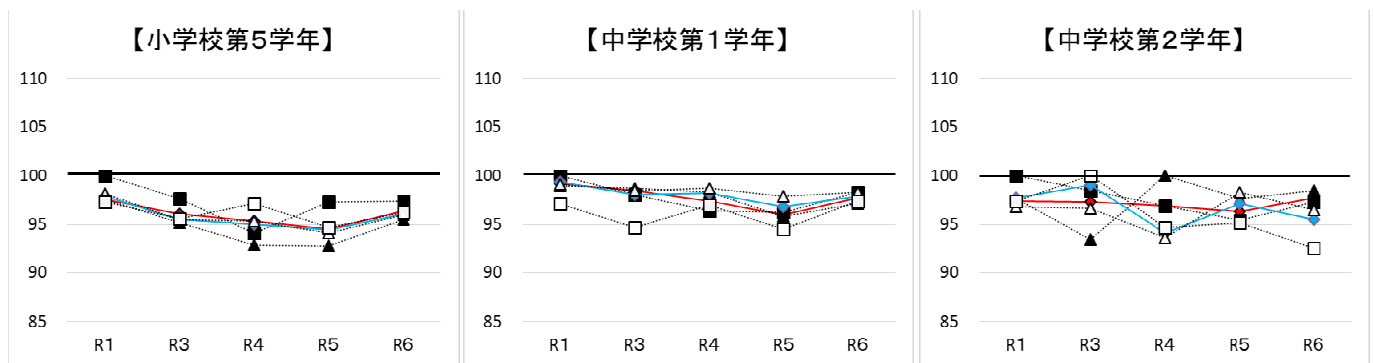
○ 福岡地区



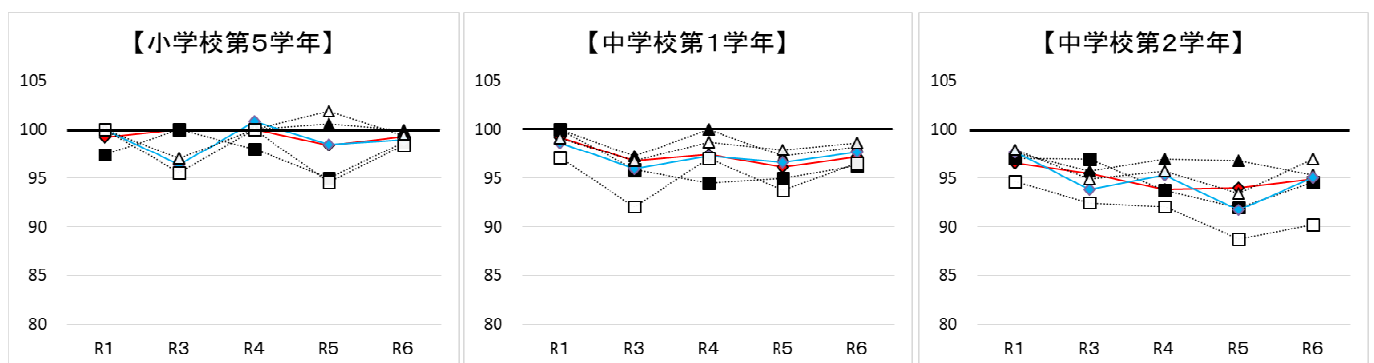
○ 北九州地区



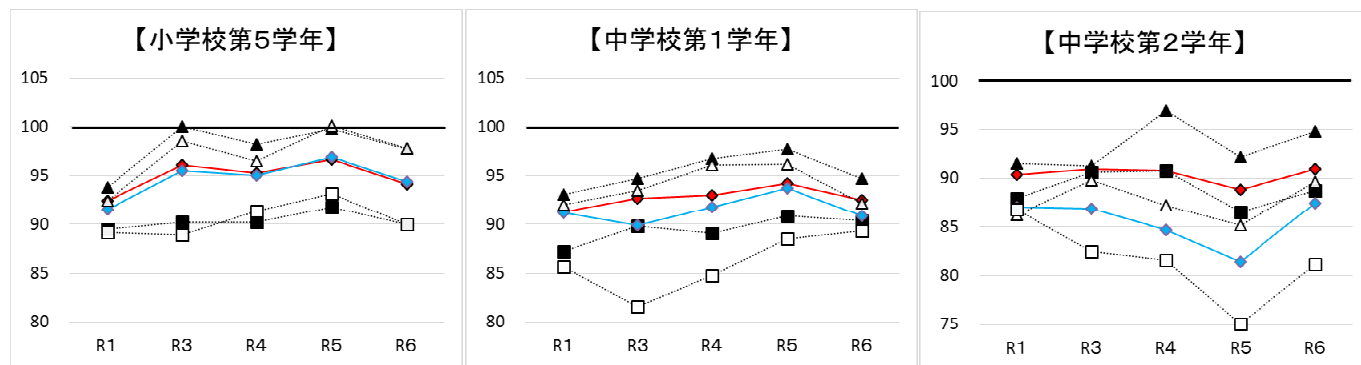
○ 北筑後地区



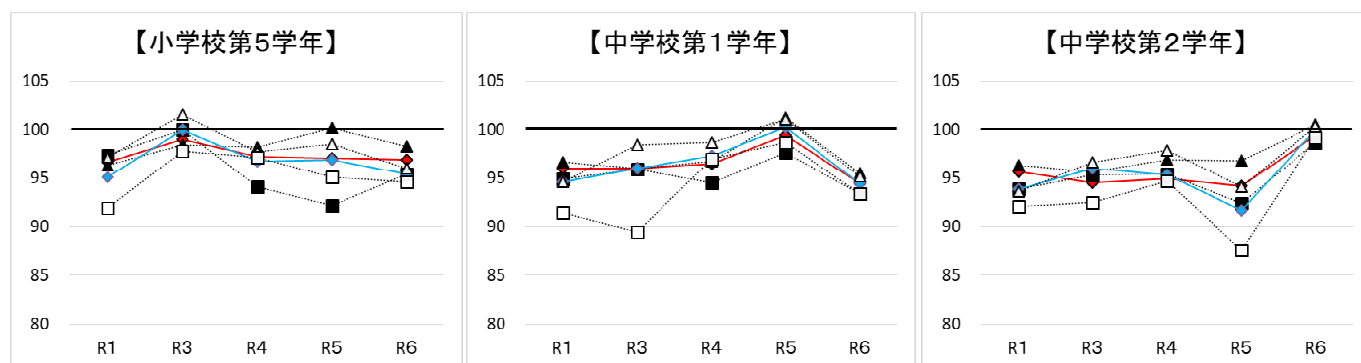
○ 南筑後地区



○ 筑豊地区

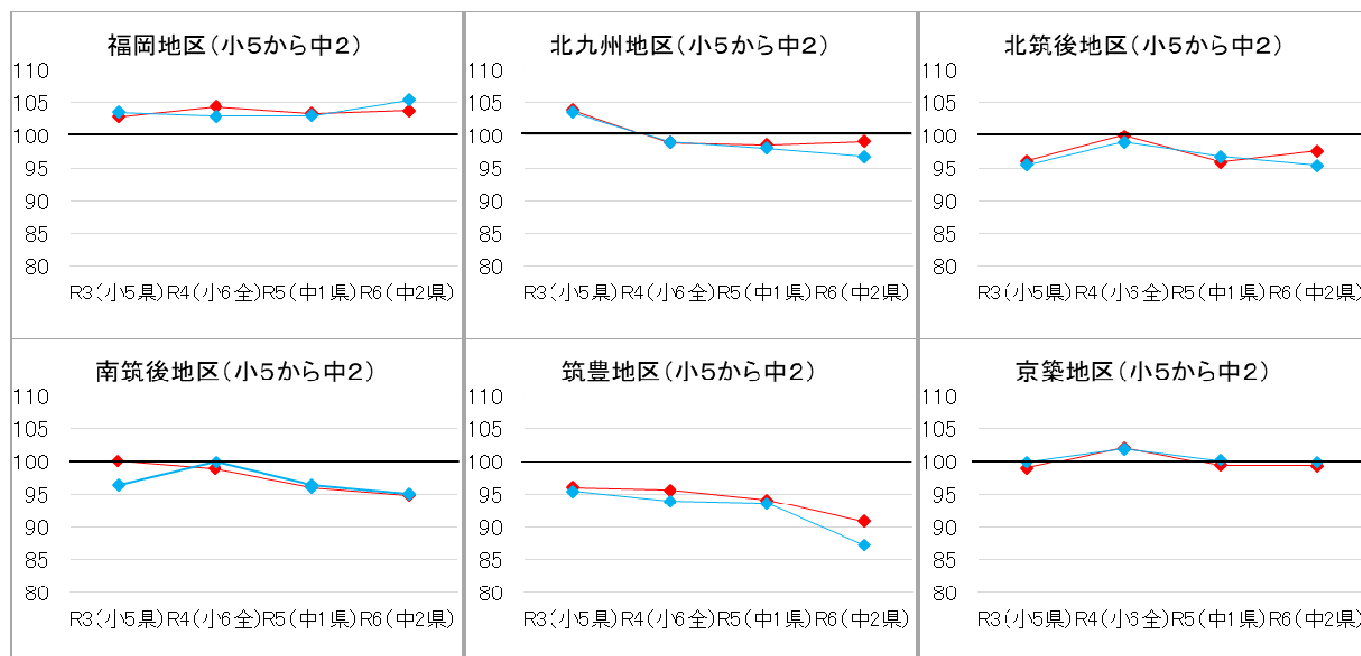


○ 京築地区



② 同一集団(現中学校第2学年)の経年変化

同一集団



3 各学年の調査結果

(1) 小学校第5学年国語

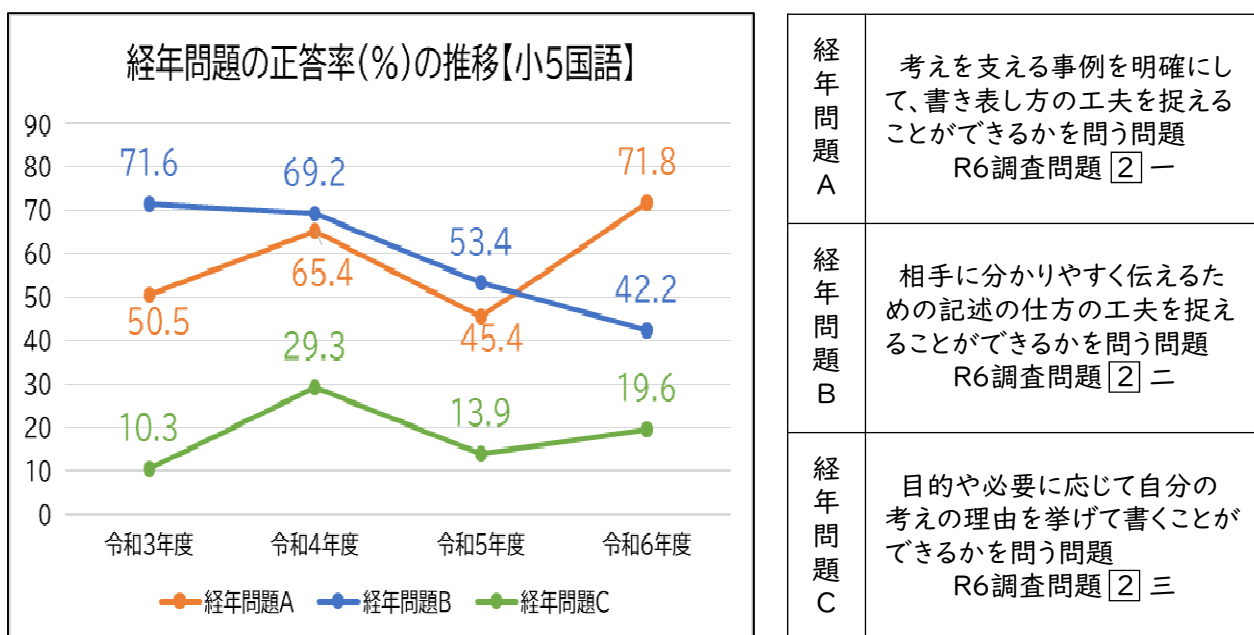
■ 期待正答率・平均正答率(%) 及びその差

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	65.3	74.4	53.3	56.7	60.0	74.4	57.0	61.3	77.5	43.3
平均正答率	65.8	73.6	56.6	44.6	70.9	73.6	58.7	66.9	77.3	32.1
差	0.5	-0.8	3.3	-12.1	10.9	-0.8	1.7	5.6	-0.2	-11.2

- 教科全体では、期待正答率を0.5ポイント上回っている。
- 領域別では、期待正答率を「話すこと・聞くこと」で3.3ポイント、「読むこと」で10.9ポイント上回っている。「知識及び技能」は0.8ポイント、「書くこと」は12.1ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「思考・判断・表現」で1.7ポイント上回っている。「知識・技能」は0.8ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で5.6ポイント上回っている。「短答式」は0.2ポイント、「記述式」は11.2ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの6年間に、同様の「出題のねらい」で5回程度出題した問題(2、3問程度)である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より14.7ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より23.7ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より2.7ポイント下降している。



例えば、経年問題B「相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること」に関する学習指導として、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にして書く活動や、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合うような学習場面を設定すること等が考えられます。

(2) 小学校第5学年算数

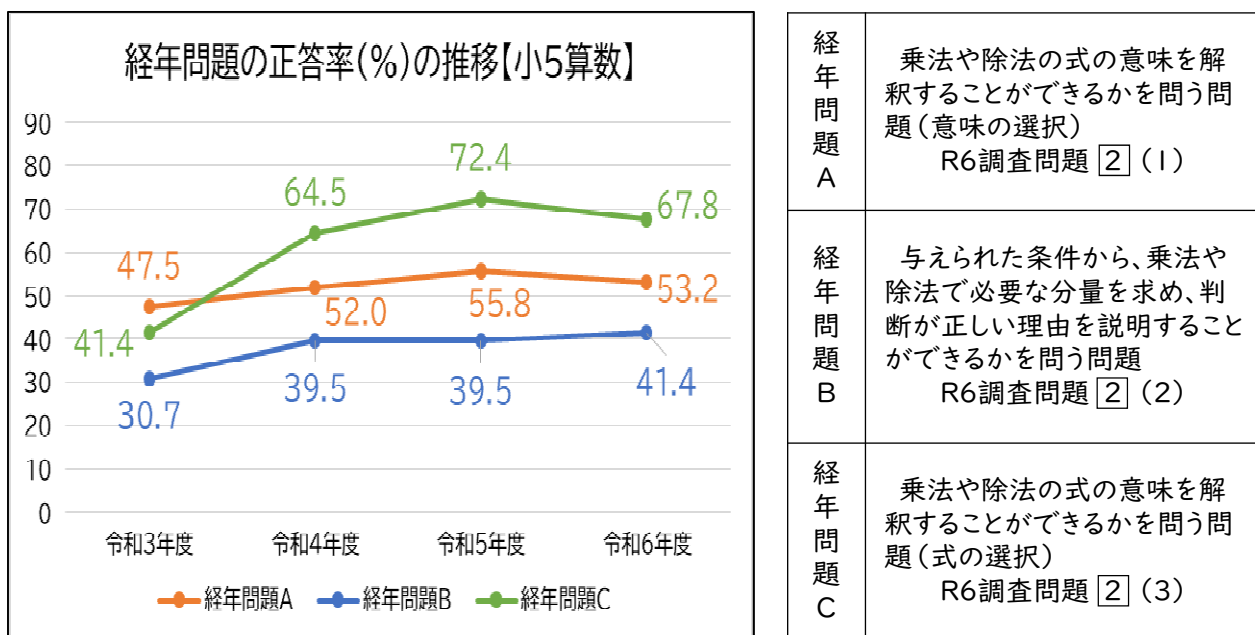
■ 期待正答率・平均正答率(%) 及びその差

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と計算	図形	測定／ 変化と関係	データの 活用	知識・技能	思考・判断 ・表現	選択	短答	記述
期待正答率	61.6	64.4	56.3	65.0	56.7	70.0	52.2	61.0	72.5	35.0
平均正答率	62.5	61.9	57.1	65.4	68.5	68.0	56.3	57.0	74.4	39.6
差	0.9	-2.5	0.8	0.4	11.8	-2.0	4.1	-4.0	1.9	4.6

- 教科全体では、期待正答率を0.9ポイント上回っている。
- 領域別では、期待正答率を「図形」で0.8ポイント、「測定／変化と関係」で0.4ポイント、「データの活用」で11.8ポイント上回っている。「数と計算」は2.5ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「思考・判断・表現」で4.1ポイント上回っている。「知識・技能」は2.0ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「短答式」で1.9ポイント、「記述式」で4.6ポイント上回っている。「選択式」は4.0ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの6年間に、同様の「出題のねらい」で5回程度出題した問題(2、3問程度)である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より7.8ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より4.4ポイント上昇している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より15.2ポイント上昇している。

例えば、経年問題B「与えられた条件から、乗法や除法で必要な分量を求め、判断が正しい理由を説明すること」に関する学習指導として、数量関係に着目し、計算の仕方考えた
り計算に関して成り立つ性質を見いだしたり、図や式を用いて場面と関連付けて理解できる
ようにしたりするような学習場面を設定すること等が考えられます。



(3) 中学校第1学年国語

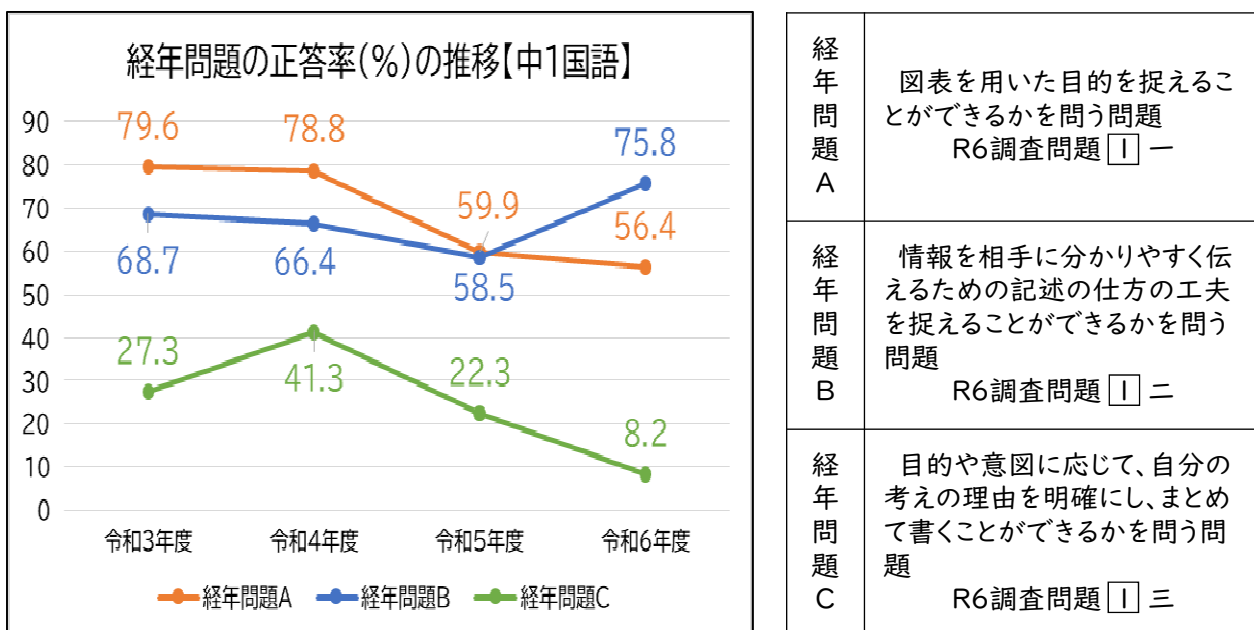
■ 期待正答率・平均正答率(%)及びその差

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	65.0	68.8	66.7	55.0	66.7	68.8	62.0	67.5	71.4	43.3
平均正答率	64.7	70.2	74.0	50.2	60.1	70.2	60.3	76.4	61.4	41.0
差	-0.3	1.4	7.3	-4.8	-6.6	1.4	-1.7	8.9	-10.0	-2.3

- 教科全体では、期待正答率を0.3ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「知識及び技能」で1.4ポイント、「話すこと・聞くこと」で7.3ポイント上回っている。「書くこと」は4.8ポイント、「読むこと」は6.6ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で1.4ポイント上回っている。「思考・判断・表現」は1.7ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で8.9ポイント上回っている。「短答式」は10.0ポイント、「記述式」は2.3ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの6年間に、同様の「出題のねらい」で5回程度出題した問題(2、3問程度)である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より0.2ポイント下降している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より4.4ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より19.5ポイント下降している。



例えば、経年問題C「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」に関する学習指導として、どの部分が意見でどの部分が事実や感想なのかを確かめたり、示した理由が意見を支えるものになっているかを確かめたりするような学習場面を設定すること等が考えられます。

(4) 中学校第1学年数学

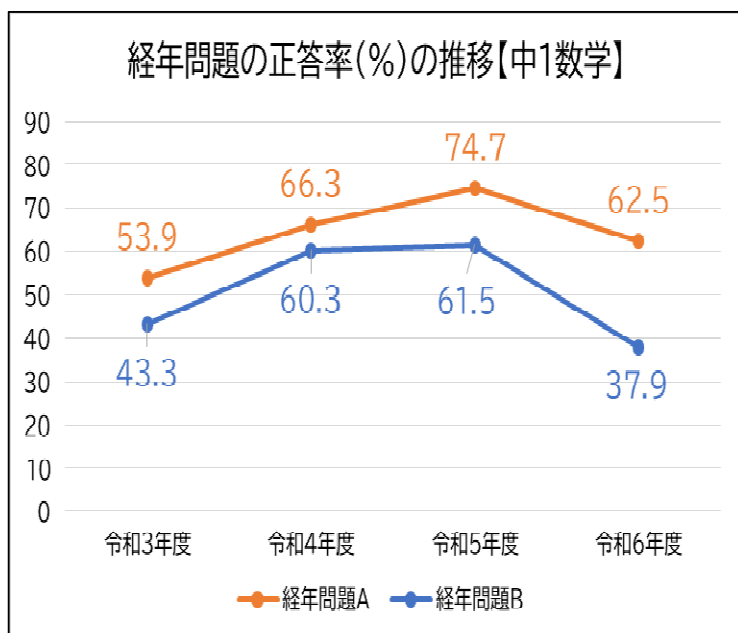
■ 期待正答率・平均正答率(%) 及びその差

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	67.6	73.1	65.0	61.7	63.8	70.5	64.4	83.3	68.8	52.5
平均正答率	62.4	58.6	66.0	71.6	59.6	67.1	57.3	92.5	61.5	42.8
差	-5.2	-14.5	1.0	9.9	-4.2	-3.4	-7.1	9.2	-7.3	-9.7

- 教科全体では、期待正答率を5.2ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「図形」で1.0ポイント、「変化と関係」で9.9ポイント上回っている。「数と計算」は14.5ポイント、「データの活用」は4.2ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で3.4ポイント、「思考・判断・表現」で7.1ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で9.2ポイント上回っている。「短答式」は7.3ポイント、「記述式」は9.7ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの6年間に、同様の「出題のねらい」で5回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかを問う問題 R6調査問題 2 (1)
経年問題B	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、同じ表現方法を適用して記述することができるかを問う問題 R6調査問題 2 (2)

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より1.5ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より16.6ポイント下降している。

例えば、経年問題B「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、同じ表現方法を適用して記述すること」の学習指導に関して、見いだした数の性質について根拠を明らかにして説明したり、条件や場面を変えて数学的な表現を用いて表現したりするような学習場面を設定すること等が考えられます。



(5) 中学校第2学年国語

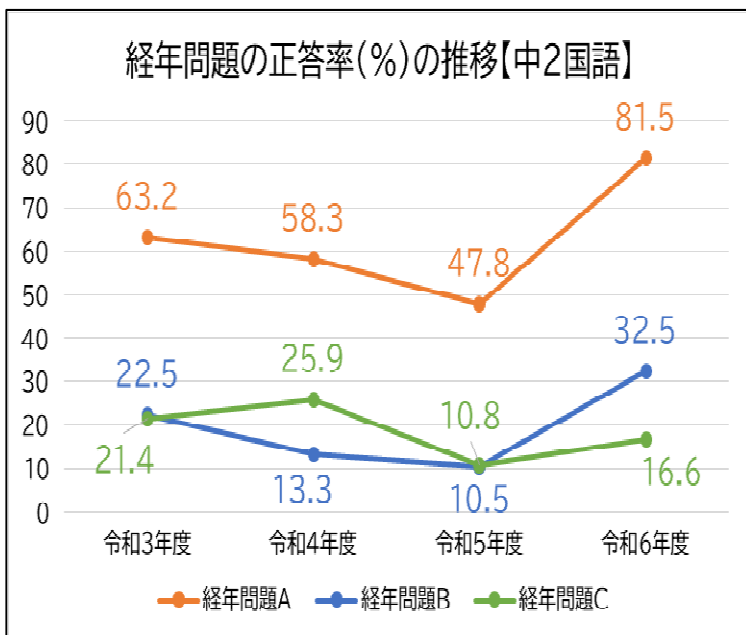
■ 期待正答率・平均正答率(%) 及びその差

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	62.8	74.2	65.0	55.0	52.5	74.2	57.1	67.3	73.3	42.5
平均正答率	55.9	62.2	61.4	49.7	48.0	62.2	52.8	61.8	66.0	32.1
差	-6.9	-12.0	-3.6	-5.3	-4.5	-12.0	-4.3	-5.5	-7.3	-10.4

- 教科全体では、期待正答率を6.9ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「知識及び技能」で12.0ポイント、「話すこと・聞くこと」で3.6ポイント、「書くこと」で5.3ポイント、「読むこと」で4.5ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で12.0ポイント、「思考・判断・表現」で4.3ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で5.5ポイント、「短答式」で7.3ポイント、「記述式」で10.4ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの6年間に、同様の「出題のねらい」で5回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかを問う問題 R6調査問題 4 一
経年問題B	文章の内容を、叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかを問う問題 R6調査問題 4 二
経年問題C	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかを問う問題 R6調査問題 4 三

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より48.9ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より10.0ポイント上昇している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より10.1ポイント下降している。



例えば、経年問題C「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」の学習指導に関して、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを説明したり確かめたりするような学習場面を設定すること等が考えられます。

(6) 中学校第2学年数学

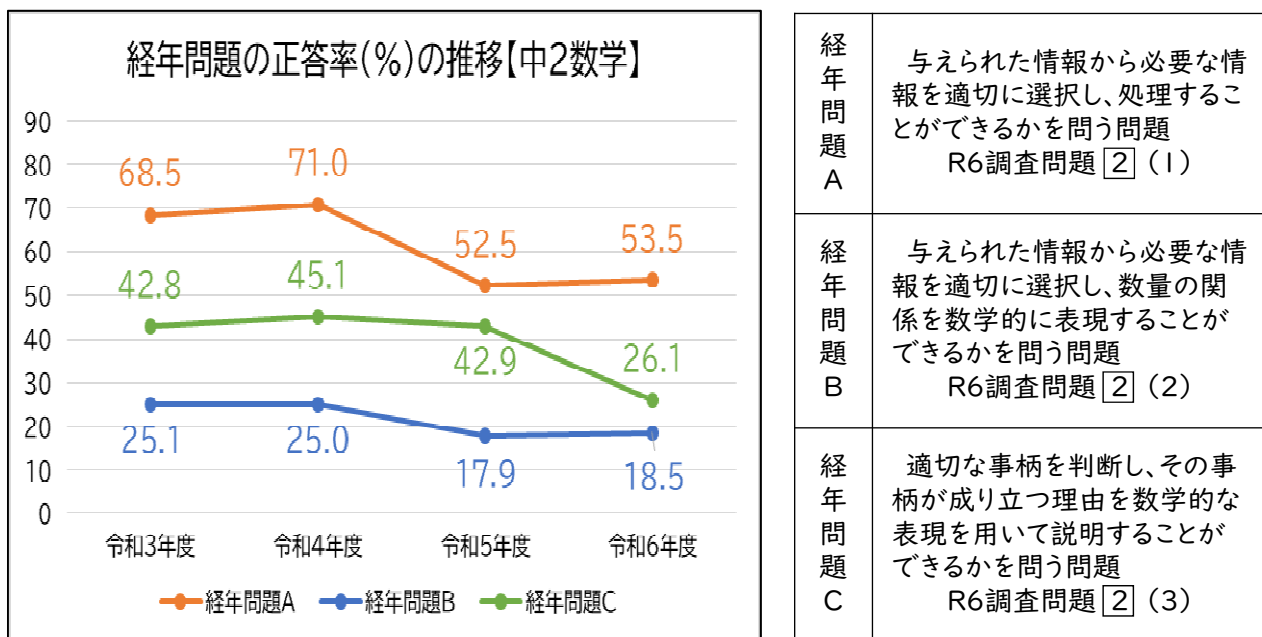
■ 期待正答率・平均正答率(%)及びその差

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	63.7	65.0	62.5	63.8	61.7	71.8	52.5	62.5	69.1	50.0
平均正答率	50.3	51.1	40.6	60.9	47.1	64.4	31.0	62.7	54.4	26.8
差	-13.4	-13.9	-21.9	-2.9	-14.6	-7.4	-21.5	0.2	-14.7	-23.2

- 教科全体では、期待正答率を13.4ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「数と式」で13.9ポイント、「図形」で21.9ポイント、「関数」で2.9ポイント、「データの活用」で14.6ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で7.4ポイント、「思考・判断・表現」で21.5ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で0.2ポイント上回っている。「短答式」は14.7ポイント、「記述式」は23.2ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの6年間に、同様の「出題のねらい」で5回程度出題した問題(2、3問程度)である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より24.0ポイント下降している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より10.2ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より16.7ポイント下降している。

例えば、経年問題B「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現すること」の学習指導に関して、数量や図形などに関する問題場面において試行した過程や判断の根拠などを、言葉や数、式、図などを適切に用いて表現するような学習場面を設定すること等が考えられます。



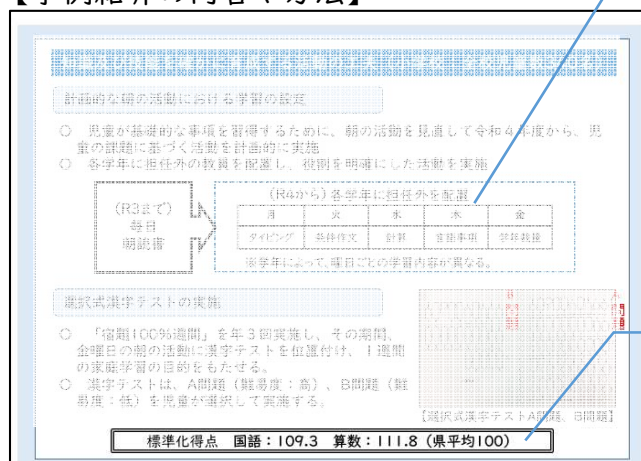
Ⅰ 事例紹介の内容や方法について

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の教科に関する調査結果及び、児童生徒質問調査結果（非認知的能力）が県平均を上回っており、成果を上げている学校を、次の2つの取組に整理して紹介する。

○主に知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の育成に成果を上げた取組

○主に学びに向かう力、人間性等の育成に成果を上げた取組

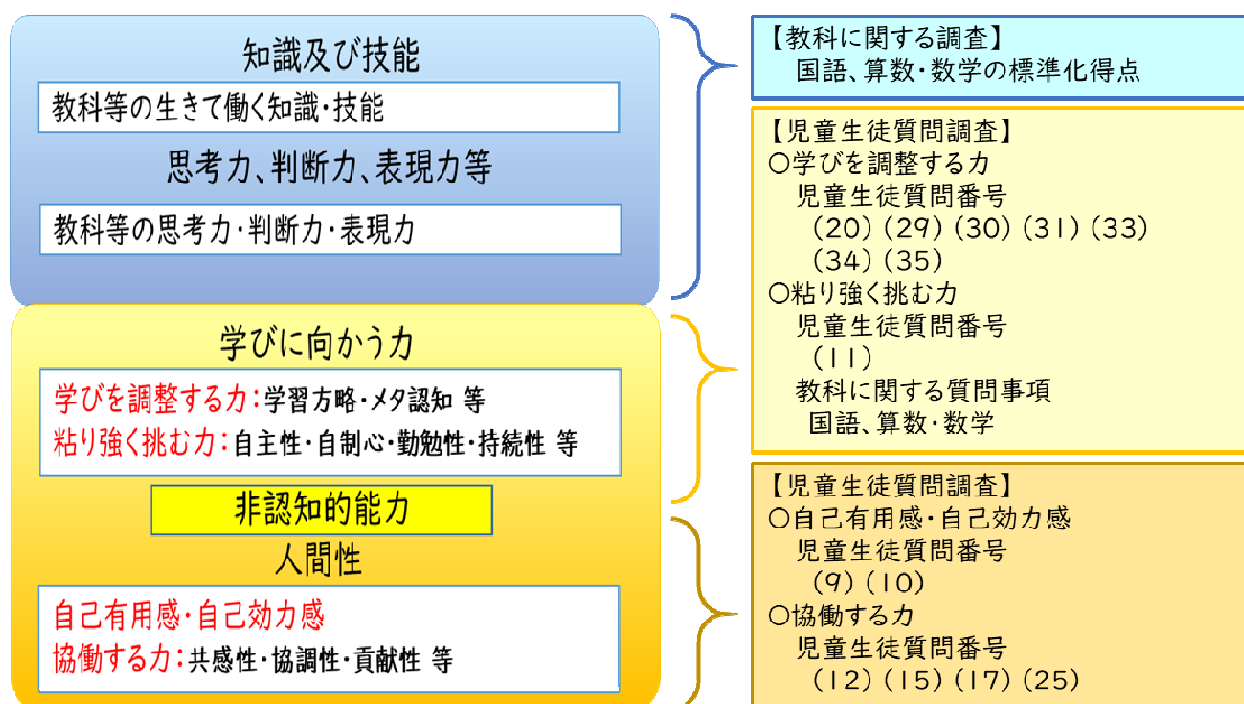
【事例紹介の内容や方法】



各学校の実態に応じて参考にしやすいよう、事例校における取組の具体を、図や写真等の資料とともに分かりやすく紹介

事例校における特徴的な項目について、標準化得点または児童生徒質問調査の結果を表示

事例校の選定にあたって「学びに向かう力、人間性等」に係る「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己肯定感」「協働する力」の傾向を把握するために活用した質問の項目は、以下のとおりである。

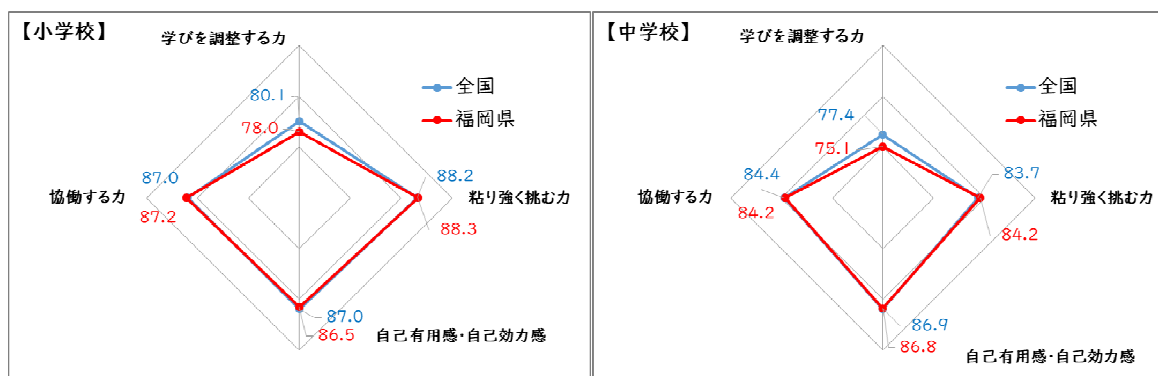


次頁に、上に示した各質問の具体を示す。

番号		「学びを調整する力」に関する項目
小	中	
(20)	(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
(29)	(29)	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
(30)	(30)	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
(31)	(31)	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
(33)	(33)	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
(34)	(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
(35)	(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思っていますか
番号		「粘り強く挑む力」に関する項目
小	中	
(11)	(11)	将来の夢や目標を持っていますか
国語	国語	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか
算数	数学	今回の算数（数学）の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか
番号		「自己有用感・自己効力感」に関する項目
小	中	
(9)	(9)	自分には、よいところがあると思いますか
(10)	(10)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
番号		「協働する力」に関する項目
小	中	
(12)	(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか
(15)	(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
(17)	(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
(25)	(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

上に示した「学びを調整する力（7項目）」「粘り強く挑む力（3項目）」「自己有用感・自己肯定感（2項目）」「協働する力（4項目）」の全国及び本県の児童生徒の結果（肯定的な回答の割合）をグラフ化したものである。

グラフからは、本県の児童生徒の「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「協働する力」については、小中ともに全国と比較して、同等の傾向にある。「学びを調整する力」については、小中ともに全国と比較して低い傾向にあり、課題といえる。

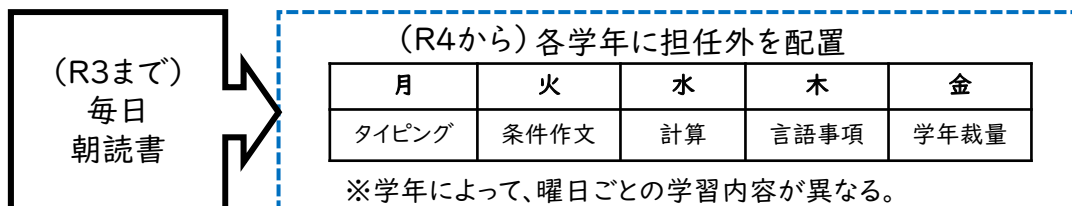


2 主に知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の育成に成果を上げた取組

知識及び技能を確かに育成する活動の工夫（小学校：全校児童数340名）

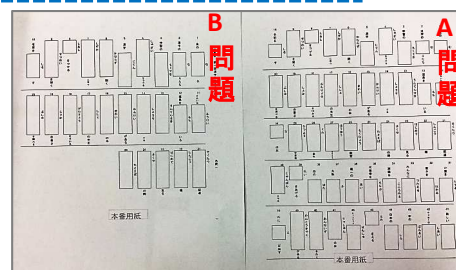
計画的な朝の活動における学習の設定

- 児童が基礎的な事項を習得するために、朝の活動を見直して令和4年度から、児童の課題に基づく活動に変更
- 各学年に教頭、主幹教諭、指導方法工夫改善教員等の担任外の教員を配置した活動の支援



選択式漢字テストの実施

- 「宿題100%週間」を年3回実施し、その期間、金曜日の朝の活動に漢字テストを位置付け、1週間の家庭学習の目的をもって取り組むようにする。
- 漢字テストは、A問題（難易度：高）、B問題（難易度：低）を児童が選択して実施する。



【選択式漢字テストA問題、B問題】

成果

標準化得点 国語：109.3 算数：111.8（県平均100）

自己表現に重点を置いた授業づくりの工夫（小学校：全校児童数280名）

インプット：アウトプット：フィードバック＝2：7：1

【1単位時間の構成】

（インプット）
教師による説明

（アウトプット）
児童同士で
互いに説明

（フィードバック）
振り返り

アウトプットに向け、
教師の説明を聞く。

毎時間、分かったこと、友達
のがんばり等を記述する。

- （目的） 児童一人一人が説明できる力をつける。
- （効果） 互いに説明し合うことで、学びを高め合う学習になる。
- （方法） ・ 友達のサポートを受け、分かるまで取り組むことができるための時間を保障する。
・ 各教科等で自分の強みをいかした役割分担を行い、交流を活性化する。



【ノートに記入された振り返りと
教師のコメント】

成果

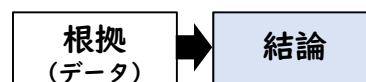
標準化得点 国語：115.5 算数：103.9（県平均100）

管理職を中心としたたつまずきの把握

自分の考えを表現する力を高める取組（中学校：全校生徒数250名）

小中連携による「かく」活動の実施

- 生徒の思考力、判断力、表現力等の実態を改善するため、中学校区の2小学校と共通で、単元を見通して授業に根拠と結論を明確にした「かく」活動を位置付けた学習を設定する。
生徒の思考を促すための「しかけ」のある授業を設定し、「かく」活動へと導く。



ワンセット

しょうこを基に
かんがえを出し
けっか、けつろんを伝える

【校内で共有している「かく」活動の考え方】

思考力・判断力・表現力等を高める指導や活動

- 定期考査や単元テストなどで思考力、判断力、表現力等に特化した問題を各教科で工夫して出題する。
校内学習指導部で検討・分析し、事後の指導に生かす。
- 週に数回プレゼン発表日を位置付けて、発表の機会を増やしたり、「身近な疑問や調べたいこと」についての課題研究を全校プレゼンコンテストとして実施したりする。

- ①【各学級】班でプレゼンを実施し、班代表を決定
- ②【各学級】学級プレゼン大会で学級代表を決定
- ③【全 校】全校でのプレゼンコンテスト実施
「構成力」「表現力」「説得力」について審査、最優秀賞、優秀賞を決定



【コンテストまでの流れ】

【コンテストの様子】

成果

国語、数学における記述式問題の正答率の平均 32.5%（県平均31.9%）

校内研修における取組の検証改善（中学校：全校生徒数420名）

校内研修での生徒の課題把握、教師の自己分析

① 生徒の実態把握

各種学力調査等の結果をもとに、生徒の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等や、学びに向かう力、人間性等（非認知的能力）を分析し、校内研修で共有

② 授業改善の方向性の共通理解

①をもとに、「授業において、学習内容と非認知的能力の両方を育成する」ことを共通理解

③ 教師が自己分析

「授業セルフチェック」使って4段階評価で自己分析を行い、個人の得意と不得意を分析

④ 管理職による授業評価

日常的に、管理職が教室訪問を行い、「授業参観シート」を使って授業を評価し、適宜、授業者に指導助言

課題把握 見出す場面	①	既習の内容や方法を振り返る場面を設定している。	4 3 2 1
	②	子どもが自ら疑問を持つことができるような資料や発問を準備している。	4 3 2 1
	③	子どもが課題を明確にすることができるように、疑問を整理して焦点化している。	4 3 2 1

【授業セルフチェック】

主体的な学びを実現するために【めあて】授業参観シート				
令和6年	月	日	()	限
年		組	科	先生
1	生徒が、既習事項や体験等を想起し、本時との関連を捉えることができる。			
めあて				

【授業参観シート】

成果

標準化得点 国語：104.6 算数：113.4（県平均100）

3 主に学びに向かう力、人間性等の育成に成果を上げた取組

児童の「自己有用感・自己効力感」の向上につながる取組（小学校：全校児童数500名）

自分に必要な力を伸ばす「パワーアップタイム」

目的：「やればできる」を実感すること

時期：毎週水曜日の1校時

対象：全校児童

方法：児童が自己選択・自己決定できる活動を取り入れながら45分を①～④で構成

- ① ICT（10分） ② 算数（10分）
③ 国語（10分） ④ 学級裁量（15分）



【パワーアップタイムの様子】

教職員全体で児童一人一人の伸びに寄り添う「超少人数学習」

目的：「わかった」「できた」喜びを実感すること

時期：水曜日の6校時の時間帯

対象：4～6年生（学年ごとに月1回程度実施）

方法：学力層等に応じて1グループ6人程度の集団を編成し、1～3年生担任を含め、全教員でグループの指導に関わる



【超少人数学習の様子】

成果

児童質問調査「自己有用感・自己効力感」に関わる

質問項目の肯定的回答の割合の平均値 **95.3%**（県平均86.5%）

「学びを調整する力」を高める授業づくり（小学校：全校児童数420名）

自由進度学習の実施

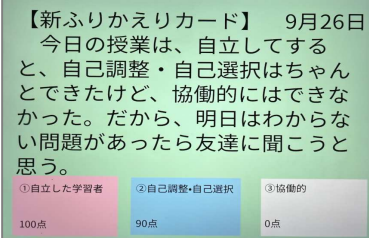
- 算数科の主に「知識及び技能」の習得をねらいとする学習において、児童が個人で1単位時間の学習計画を立て、それをもとに課題解決を図る自由進度学習を実施
- 児童は学習中、必要に応じて、友達と考えを交流したり、一人一台端末を使って調べたりしながら解決



【必要に応じて友達と考えを交流する児童】

振り返りの工夫

- 1単位時間及び単元の終末段階では、「自立した学習者」「自己調整・自己選択」「協働的」の3つの視点で振り返ったことを記述、各項目100点満点で自己評価
- 授業の導入では、全体や個人で前時の振り返りの内容を確認し、本時の学習への意欲を高め、見通しを立てる活動の位置付け



【児童が記入した振り返りと自己評価】

成果

児童質問調査「学びを調整する力」に関わる

質問項目の肯定的回答の割合の平均値 **82.3%**（県平均78.0%）

重点目標「学び合う子供の育成」につながる授業づくり（小学校：全校児童数380名）

授業観をアップデート！相互授業参観の実施

- 短時間の相互参観を行うことで、日常的に授業づくりを学び合う機会を設定
 - ① 授業者は、見どころを絞って週案に記載（2週間に1回のペース）
 - ② 主幹教諭が職員室前のホワイトボードに、学級と時間を掲示
 - ③ 自由にピンポイントで参観可能（管理職等1名は必ず参観、口頭でのフィードバック）
他の教師が参観に行けるよう、管理職、主幹教諭等が学級に入る

ベテランや中堅教員を
授業づくりリーダーに
位置付けて参観を推奨

11月		1週目				
18	19	20	21	22	23	24
1校時		第1-2				
2校時		第5-1	第4-2			
3校時		第3-1	第4-1			
4校時	第6-1			第2-2		
5校時	第3-2					
6校時						

【職員室前のホワイトボード】

短時間の相互授業参観を充実させる事前準備

- 特に同学年、近接学年の相互参観を活性化させるため、学年会等で見る視点、助言が欲しい点等を共有
- 授業者は感想用紙等の準備はしない。参観者も口頭で感想を伝えるようにし、気軽さ、習慣化を重視

成果

児童質問調査「学びを調整する力」に関わる
質問項目の肯定的回答の割合の平均値 **88.6%**（県平均78.2%）

生徒の自律的な学びを支える取組の工夫（中学校：全校生徒数200名）

系統的なキャリア教育

- 校長による生徒へのキャリアカウンセリング（個別面談）を実施し、生徒の取組や変容を価値付け
- 行事や体験活動とキャリア教育を関連させ、3年間を通して系統的にキャリア教育を推進
- 生徒が自ら具体的な目標設定をしたり、実現方法を考えたりすることを繰り返し経験

【キャリア教育の視点を生かした取組】
・キャリアパスポートに事前の目標設定、事後の振り返り、友達からのメッセージを記入し、積み重ねる。
・生徒全員に対して、キャリアカウンセリングを実施する。

具体的な目標の設定と
実現方法の考察
生徒の実態把握
個別の指導・援助
称賛

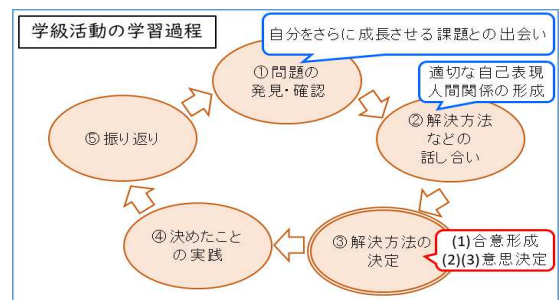
【学び合える関係づくりを目指した学級活動】
・合意形成することで、学級の課題解決に取り組む。
・考えを深めたり広げたりする交流活動をもとに、意思決定を行う。

集団で問題を解決する
力の育成
学び合う雰囲気づくり

【非認知的能力を引き出している取組】

学級活動の学習過程を生かした各教科の授業づくり

- 学級活動の学習過程を各教科の学習過程に取り入れて実施
- 各教科の導入段階で、生徒が課題意識をもつことができる授業づくりの工夫（①）
- ペアやグループで話し合いながら学ぶ時間の設定（②、③、④）
（話し合いを通して解決の方向性を考え、自分に必要な活動を行う。）
- 振り返り、自己評価の積み上げ



【学級活動の学習過程】

成果

生徒質問調査「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答の割合 **89.2%**（県平均78.0%）

粘り強く取り組む態度を形成する見取りの工夫（中学校：全校生徒数450名）

非認知的能力の変容を継続的に見取る生活アンケートの実施

- 同一市町村内の小学校と連携し、非認知的能力に係る質問項目を加えた生活アンケートを年2回実施
- 継続して非認知的能力の項目の変容を見取るとともに、結果を校内で共有し、個に応じた支援や授業づくりに反映

プロセスを評価し、生徒が自ら取り組む力を向上

- 年間を通して朝の活動での1分間スピーチの実施、校内弁論大会の実施、各教科等における自分の考えを書く活動の位置付けにより、記述量、内容、表現力の変容等を教師や生徒同士で評価する場を設定
- 数学科における問題解決の過程の記述について、できているところまでを教師が積極的に評価（部分点）
- 各学年会でほめる観点を共有し、生徒をほめるべき点はしっかりほめることを学校全体で実施

■学校生活について

落ち込むようなことがあっても自分で気持ちを切り替えることができます

人の役に立ちたいと考えています

自分と異なる意見を尊重して、よりよい解決ができるようにしています

何事にも途中であきらめずに粘り強く最後まで取り組もうと努力します

【生活アンケート（抜粋）】



【学校主催の弁論大会】

成果

生徒質問調査「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答の割合 **92.0%**（県平均78.0%）

生徒が参画する取組を基盤にした校務運営（中学校：全校生徒数290名）

「させる」から「支援する」教育活動への移行

- 組織運営、教育課程、研修において生徒指導提要（改訂版）の理念を反映
- 各教科の指導をはじめとする全ての教育活動において、生徒指導の4機能を意識した指導上の工夫や働きかけを行うことを共有

生徒の自律的な取組を支えるFノート

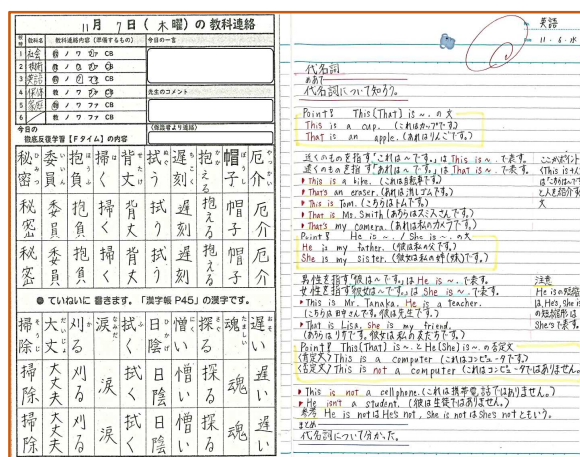
- ねらいは「提出させること」ではなく、「自分で決めたことに取り組む生徒を支えること」

生徒の自律を促す「生活のきまり」

- 学習・部活動、儀式的行事、対外的行事の3つの場面において適した姿になるよう生徒自ら判断するための手引き
- 生徒が自分で考え、判断し、行動した結果は自分で受け止めようとする力を育てることを重視
- 生徒、保護者、教職員が一緒に毎年見直し

成果

生徒質問調査「自己有用感・自己効力感」に関わる質問項目の肯定的回答の割合の平均値 **90.1%**（県平均86.8%）



【Fノート】

IX まとめと今後の取組



全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果から福岡県の傾向として、次のようなことが明らかになりました。

○ **国語科**では、主に次の点に課題がありました。

- ・表現の効果を捉えて読んだり書いたりすること
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること
- ・描写に基づいて、内容を把握したり心情を捉えたりすること
- ・図やグラフなどの非連続の情報と文章を関係づけて考え捉えること

○ **算数科・数学科**では、主に次の点に課題がありました。

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得が不十分な領域があること
- ・考察して見いだした事実や考え方、解決方法や判断の理由等を、数や図、記号、言葉等を用いて説明すること
- ・問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すこと

○ **児童生徒質問調査**では、教科別調査との関わりを含め、次のことがわかりました。

- ・「協働する力」は小・中学校共に全国平均を上回っている項目が多く、協調性や貢献性が高いといった特徴があるが、「学びを調整する力」は、どの項目も全国平均を下回っている。
- ・「学びを調整する力」に係る項目（自分で考え自分で取り組む、自分で学び方を考え工夫するなど）について肯定的に回答している児童生徒の方が、各教科等の学力調査の正答率も高い傾向にある。
- ・授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用する頻度が高い児童生徒の方が、そうでない児童生徒よりも「学びを調整する力」の資質・能力の項目について肯定的な回答をしている。

成果を上げている地域や学校の実践事例から捉えられる効果的な学力向上方策には、次のようなことがありました。



○ 主に**知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の育成**をめざした取組

- ・授業や朝の活動等において、自分で課題を選択したり、AIドリルを使って自分のペースで学習したりできる活動を設定すること
- ・自分の考えを書いたり友達と交流したりする等、表現する活動を意図的に位置付けること

○ 主に**学びに向かう力、人間性等の育成**をめざした取組

- ・授業の終末段階において、自分の学び方や伸びを振り返るための視点を提示したり、次の活動につなげるための支援をしたりするなど、振り返りの活動を工夫すること
- ・児童生徒を褒める観点を明確にし、全職員で積極的に児童生徒によさや伸びを伝えること

○ 学校全体としての**協働的、組織的**な取組

- ・参観の視点を絞って、短時間で相互授業参観を行うなど、実践的な研修方法の工夫をすること
- ・管理職のリーダーシップの下、児童生徒や教師の実態を分析し、全職員で改善策を検討する等、取組を組織的に検証改善しながら進めること



各種調査の結果に基づく課題や協力校等の取組の成果から、今後は、次のような学力向上方策に取り組んでいきましょう。

- ① **児童生徒自身が課題を設定したり学習活動を選択したり**して主体的に学習を進めることができるように、学習過程や教師の支援を工夫すること(「**児童生徒が主語の授業**」の実現)
- ② 文章を読んだり話を聞いたりしたことを**要約して、自分なりにまとめて書いたり話したり**する活動の設定とそのための支援を工夫すること
- ③ **ICTの活用**については、ドリル的な活用や情報の検索だけではなく、児童生徒同士が考えを交流したり自分の考えをまとめ、説明したりする活動における活用を工夫すること
- ④ 「**学びを調整する力**」を育成するために、自分の学び方や伸びを把握するとともに、改善策について考え実行することにつなげる「**自己の学びを振り返る活動**」を工夫すること
- ⑤ 児童生徒が**安心して学ぶ環境(学級づくり)**を整えるために、学力向上の課題のみならず、生徒指導に係る課題等についても**全職員で共有し、共に解決しよう**と組織的に取組を進めること





福岡県教育委員会としても、資質・能力の育成を目指し、次のような施策によって各地域や学校を支援していきます。

育成を目指す「資質・能力」



知識及び技能

教科等の生きて働く知識・技能

思考力、判断力、表現力等

教科等の思考力・判断力・表現力

学びに向かう力

学びを調整する力: 学習方略・メタ認知 等

粘り強く挑む力: 自主性・自制心・勤勉性・持続性 等

非認知的能力

人間性

自己有用感・自己効力感

協働する力: 共感性・協調性・貢献性 等



児童生徒が主語の学び

児童生徒自身による課題設定

自己選択・自己決定

ICTの効果的、効率的な活用



「教える」から「支える」へ

授業チェックリスト、授業評価アンケート

自己の学びを振り返る活動

児童生徒の学び合い

授業づくりを含む日常的な活動への支援

■ 授業改善の在り方を究明するモデル事業

- ・学力向上推進拠点校指定事業
- ・重点課題研究指定・委嘱事業

■ 授業や家庭学習に活用できる教材集、指導資料集の作成及び配信

- ・小4チャレンジ問題
- ・未来シリーズ教材集・指導資料集
- ・動画コンテンツ「Step to the Future」
- ・思考力・判断力・表現力等を問う定期考査問題

組織的な取組への支援

■ 非常勤講師を派遣して学力向上のシステムを構築する事業

- ・学力向上強化市町村指定事業
- ・クラスター非常勤講師派遣事業

■ 学力向上プランとロードマップの活用促進

- 教育課程実施・編成状況調査
- 鍛ほめプロジェクト推進事業

※ **Webページへの記載**

本報告書は、以下のWebページで閲覧することができます。

① 福岡県庁ホームページ

URL：<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/2132105/>

(トップページ→組織から探す→福岡県教育委員会→義務教育課→新着情報)



② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ

URL：<http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>





協働・創造

協働することにより、新たな価値を創出する
各々が自分の強みを発揮し、
互いの弱みを相互に補完したり、
自身も強みをさらに伸長したりするなど、
新たな価値あるものを生み出す